ISSN 0913-8374

市原市文化財センター年報

平成12年度

財団法人　市原市文化財センター

序　　文

平成12年度は、公共・民間を合わせて、22事業を実施しました。事業内容は、確認調査７、確認・本調査３、本調査５、整理５、整理・報告書刊行２となります。

今年度の発掘調査では、縄文時代から中世までの多くの遺構や遺物を検出し、市内の歴史を解く上で貴重な成果を上げることができました。

姉崎地区の妙経寺遺跡では、古墳時代に東京湾の砂丘列に形成された古墳群の全容が解明されつつあります。また、同遺跡から検出された縄文時代の遺構は東京湾の往時の海岸風景を解き明かす重要な資料であります。海上郡衙（ぐんが）推定地の西野遺跡群や十五沢遺跡群では、広範囲な確認調査で奈良～平安時代の遺物や遺構等の分布傾向が明らかとなり、徐々に往時の郡役所の範囲が解明されつつあります。

調査地域について見ると、市内北側の姉崎から八幡にかけての海岸平野や市域北部に集中すると言うここ数年来の傾向にあります。これらの調査うち、妙経寺遺跡は姉崎駅前土地区画整理、御墓堂遺跡は八幡宿駅東口土地区画整理、白塚台遺跡は都市計画道路青柳海保線、不入斗遺跡群は市道110号線、西野遺跡群や十五沢遺跡群は海上地区県営ほ場整備にそれぞれ伴う継続的に実施されている公共事業の調査であります。こうした公共事業を主体とした調査傾向は、バブル崩壊以降の日本経済の鈍化とともに、大規模開発が減少してからの顕著な傾向であると言え、発掘調査と経済活動が無縁でないことを示しています。

このように埋蔵文化財を取り巻く社会情勢は、その経済活動と伴に急激に変わりつつあり、新たな視点での埋蔵文化財の保護・研究・活用が求められております。

当センターでは、今後も、発掘調査・整理作業で得られた成果を公開の機会をつうじて、郷土の歴史を身近なものに感じられるよう生涯学習に寄与すると共に、埋蔵文化財の保護と重要性をご理解いただきますよう、一層の努力をしていくつもりであります。

最後となりますが、日頃よりご指導・ご協力を賜りました千葉県教育庁、市原市教育委員会ならびに関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成15年３月28日

財団法人　市原市文化財センター
理事長　鵜　澤　綱　夫

目　　次

序文
Ⅰ機構
Ⅱ平成12年度の事業概要
Ⅲ平成12年度の調査概要
　1．八幡御墓堂遺跡
　2．白塚台遺跡
　3．市原条里制遺跡（菊間徳万地区C）
　4．不入斗遺跡群（片又木遺跡３・４次）
　5．能満城跡遺跡
　6．新堀小鳥向遺跡（第２地点）
　7．椎津正坊山城跡
　8．能満遺跡群（二階台地点）
　9．今富遺跡群立野前地点
　10．十五沢遺跡群E地点
　11．十五沢遺跡群F地点
　12．西野遺跡群B地点（確認調査）
　13．西野遺跡群B地点（本調査）
　14．加茂遺跡D地点
　15．喜多仲台遺跡
　16．新堀小鳥向遺跡（第３地点）
　17．福増遺跡
　18．姉崎妙経寺遺跡
Ⅳ　平成12年度受贈図書一覧

Ⅰ 機　構

財団法人市原市文化財センターの機構は、役員および職員から構成されている。役員は、寄付行為の定めにより、理事長、副理事長、理事、監事をもって構成され、平成12年度の職員は、事務職員6名（うち都市公社出向職員1名）、技術職員16名（うち事務従事職員15名）であり、その組織および氏名は以下のとおりである・

1. 組　織

役　員

理事長
副理事長
常務理事
理　事
監　事

庶務課　　課長　主任　事務員（嘱託）

調査課　　課長　課長補佐　副主幹　主査　副主査　主任
調査研究員（嘱託）　事務員（嘱託）

2. 役　員

職　名	役　職　名	氏　名
理事長	生涯学習部副参事	小茶文夫
副理事長	生涯学習部部長	藤田国昭
常務理事	専　任	竹内　豊
理　事	市原市教育委員会教育庁	大野　皎
理　事	國學院大學教授	加藤晋平
理　事	和洋女子大学名誉教授	寺村光晴

職　名	役　職　名	氏　名
理　事	郷土史家	木村千春
理　事	企画部長	佐久間洋一
理　事	総務部長	小倉敏男
理　事	都市計画部長	藤本康男
監　事	出納室長	永嶋高明
監　事	教育総務部総務課長	小出完爾

3. 職　員

所　属	役　職　名	氏　名
庶務課	課　長	宮崎澄夫
	主　任	大鐘光江
	主　任	高浦貞子
	事務員（嘱託）	常澄智子
調査課	課　長	伊藤智樹
	課長補佐	山田貴久
	副主幹	田中清美
	副主幹	小出紳夫
	副主幹	浅利幸一
	副主幹	近藤　敏
	副主幹	高橋康男

所　属	役　職　名	氏　名
調査課	副主幹	木對和紀
	主　査	忍澤成視
	主　査	田中茂良
	副主査	鶴岡英一
	副主査	櫻井敦史
	副主査	北見一弘
	副主査	牧野光隆
	副主査	小橋健司
	主　任	阿部茂之
	調査研究員	半田堅三
	事務員（嘱託）	辻　葉子

Ⅱ　平成12年度事業概要

1．　理事会の開催

第１回理事会　平成12年5月26日

議案第１号　平成11事業年度財団法人市原市文化財センター事業報告の承認について

議案第２号　平成11事業年度財団法人市原市文化財センター収入支出決算の承認について

第２回理事会　平成13年2月15日

議案第１号　財団法人市原市文化財センター寄附行為の一部改正について

議案第２号　寄附行為の変更その他会計、契約事項等の整備に伴う財団法人市原市文化財センター関係規程の整備に関する規程について

議案第３号　平成12事業年度財団法人市原市文化財センター補正予算（第1号）について

第３回理事会　平成13年3月28日

議案第１号　常勤役員の報酬額の決定について

議案第２号　平成12事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画の変更について

議案第３号　平成12事業年度財団法人市原市文化財センター補正予算（第2号）について

議案第４号　平成13事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画について

議案第５号　平成13事業年度財団法人市原市文化財センター収入支出予算について

議案第６号　平成13・14事業年度財団法人市原市文化財センター評議員の選出について

2．平成12事業年度の会計監査は、平成13年５月17日財団法人市原市文化財センター事務室において、永島高明氏・小出完爾氏監事により実施した。

3．平成12年度受託事業

番号	事業名	委託者名	遺跡名	種別	事業内容	面積	契約年月日	受託金額(円)
1	八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (八幡都市改造事務所)	八幡御墓堂遺跡	包蔵地	確認調 本調査	4,992㎡ 732,69㎡	平成12年7月31日 平成12年5月8日	11,354,700 10,728,900
2	都市計画道路青柳海保線（島野）建設工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 街路課	白塚台遺跡	包蔵地	確認調査	14,400㎡	平成12年10月24日	11,931,150
3	若宮都市下水路1号幹線築造工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 下水道建設課	市原条里制遺跡	包蔵地	確認調査	3,240㎡	平成12年7月3日	6,079,500
4	市道110号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 道路建設課	不入斗遺跡群 （片又木遺跡）	集落跡	確認調査	4,000㎡	平成12年8月7日	4,154,850
5	市道110号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 道路建設課	不入斗遺跡群 （片又木遺跡）	集落跡	本調査 本調査	1,260㎡ 2,510㎡	平成12年10月27日 平成13年1月9日	12,913,950 24,248,700
6	市道241号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 道路建設課	能満城跡遺跡	城跡 包蔵地	本調査	900㎡	平成12年6月6日	8,999,550
7	市道5078号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 道路建設課	新堀小鳥向遺跡	包蔵地	確認調査	1,156㎡	平成12年5月9日	2,150,400
8	市道5078号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 道路建設課	新堀小鳥向遺跡	包蔵地	本調査	610㎡	平成12年5月25日	1,732,500

番号	事業名	委託者名	遺跡名	種別	事業内容	面積	契約年月日	受託金額(円)
9	市内遺跡発掘調査事業	市原市ふるさと文化課	椎津正坊山城跡	城跡包蔵地	確認調査整理	1,751.37㎡	平成12年4月14日	1,824,400
		市原市ふるさと文化課	能満遺跡群	城跡包蔵地	確認調査	499.56㎡	平成12年5月2日	813,300
					本調査整理	163㎡	平成12年5月10日	2,236,550
		市原市ふるさと文化課	今富遺跡群	包蔵地	確認調査整理	1,788.53㎡	平成12年6月2日	2,045,600
10	海上地区遺跡発掘調査（文化庁分）	市原市ふるさと文化課	十五沢遺跡群	包蔵地	確認調査	3,560㎡	平成13年1月31日	4,410,000
11	海上地区県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査（農林分）	千葉県市原土地改良事務所	十五沢遺跡群 西野遺跡群	包蔵地	確認調査	33,440㎡	平成12年11月29日	16,581,000
					本調査	900㎡	平成13年1月30日	8,409,000
12	新井浄水場施設に伴う埋蔵文化財調査	市原市水道建設課	新井花和田遺跡	包蔵地 塚	整理報告	2,480㎡	平成12年5月9日	5,239,500
13	都市農業センター建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市農業センター	浅井小向釜神遺跡	集落跡	整理	18,000㎡	平成12年7月31日	7,590,450
14	国分寺台地区文化財整理事業	市原市ふるさと文化課	国分寺台遺跡群（西広貝塚他）	貝塚	整理		平成12年4月3日	59,999,100
15	国分寺台遺跡群発掘調査整理報告事業	市原市ふるさと文化課	国分寺台遺跡群（坊作遺跡跡）	集落跡	整理		平成12年4月3日	13,952,800
			国分寺台遺跡群（台遺跡）	集落跡	整理		平成12年11月30日	3,577,450
16	詳細遺跡分布地図基礎データ作成事業	市原市ふるさと文化課			整理		平成12年5月31日	1,968,000
17	出土遺物整理分類事業	市原市ふるさと文化課			整理		平成12年4月28日	6,920,000
18	宅地開発（加茂地区）に伴う埋蔵文化財調査	旭硝子株式会社	加茂遺跡D1地点	集落跡	本調査整理	7,220.96㎡	平成12年3月1日	44,007,600
19	砂利採取に伴う埋蔵文化財調査	山喜興業株式会社	喜多仲台遺跡	包蔵地	本調査整理報告	450㎡	平成12年4月20日	3,528,000
20	介護老人福祉施設あじさい苑建設に伴う埋蔵文化財調査（確認）	三和会	新堀小鳥向遺跡	包蔵地	確認調査	3,936.79㎡	平成12年9月7日	2,952,600
21	不特定遺跡発掘調査事業	市原市ふるさと文化課	福増遺跡	包蔵地	確認調査	6,130㎡	平成12年10月3日	2,184,900
22	姉崎駅前土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査）業務委託	市原市姉崎都市改造事務所	姉崎妙経寺遺跡	古墳	確認調査 本調査	768㎡ 375㎡	平成12年10月6日	4,299,750
	合計							286,834,200

4．研究事業

発掘事業、整理事業に係わる日常の研究活動、職員の資質向上を目指す研修を行っている。

(1) 外部主催研修会等

① 全国埋蔵文化財法人連絡協議会関係

ア．総　　会　　平成12年６月8・9日（静岡県）

イ．研　修　会　　平成12年10月5・６日（山口県）

ウ．関東ブロック法人連絡協議会

平成12年６月15・16日（茨城県）

平成12年11月7・8日（群馬県）

エ．コンピューター等研究委員会関東ブロック地区委員会

平成12年６月2日（東京都）

平成12年10月19・20日（群馬県）

② 千葉県文化財法人連絡協議会関係

ア．総　　会　　平成12年６月22日（千葉市中央区）

イ．役　員　会　　平成13年３月26日（財団法人千葉県文化財センター）

ウ．部　　会　　事務部会　　2回　　技術部会　５回

エ．研　　修　　共同研修会　　平成12年10月13日（千葉県立中央博物館）

(2) 内部研修会

① 補助員研修会　　平成13年１月26日（神奈川県立歴史博物館）

② 職員研修会　　平成13年２月23日（船橋市飛ノ台史跡公園博物館）

5．普及事業

(1) 調査報告書『市原市新井花和田遺跡』の刊行

(2) 千葉県文化財法人連絡協議会遺跡調査研究発表会

平成13年1月21日（日）　　於　千葉市文化センター

(3) 遺跡発表会

平成13年3月11日（日）　　於　サンプラザ市原

調査遺跡の成果報告

① 加茂遺跡D地点

② 能満城跡

③ 花和田遺跡

特別講演

「市原の弥生琥珀～琥珀文化の中の市原～」

和洋女子大学名誉教授　寺村光晴

(4) 広報誌『私たちの文化財』№24、№25　作成

(5) 冊子『発掘ってなあに－住居跡編－』の刊行

冊子『発掘ってなあに－貝塚編別冊　なるみちゃんの貝輪教室』の刊行

(6)『市原市文化財センター年報（平成10年度)』の刊行

(7) 報告書等の頒布

6．平成12年度決算報告

平成12年４月１日から平成12年３月31日

収入の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異	備考
基本財産運用収入	10,000	11,967	△1,967	
事業収入	287,476,000	287,490,040	△14,040	
雑収入	94,000	103,320	△9,320	
財政調整基金積立預金取崩収入	34,900,000	34,988,943	△88,943	
基本財産積立預金取崩収入	0	10,000,000	△10,000,000	
当期収入合計	322,480,000	332,594,270	△10,114,270	
前期繰越収支差額	20,803,000	20,803,421	△421	
収入合計	343,283,000	353,397,691	△10,114,691	

支出の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異	備考
受託事業費	252,546,000	251,983,972	562,028	
研究普及事業	8,595,000	8,543,154	51,846	
一般管理費	15,943,000	15,602,942	340,058	
消費税支出	8,818,000	8,776,600	41,400	
固定資産取得支出	3,290,000	3,247,335	42,665	
特定預金支出	1,026,000	1,026,000	0	
財政調整基金積立預金支出	45,000	43,286	1,714	
基本財産積立預金支出	0	5,000,000	△5,000,000	
当期支出合計	290,263,000	294,223,289	△3,960,289	
当期収支差額	32,217,000	38,370,981	△6,153,981	
次期繰越収支差額	53,020,000	59,174,402	△6,154,402	

Ⅲ　平成12年度調査概要

平成12年度は、公共･民間を合わせて、確認調査７、確認･本調査３、本調査５、整理５、整理報告書刊行２の２２事業２４遺跡を実施した。事業における公共･民間の割合は、ほぼ８対２となっており、前年度に比べて事業数や事業費の落ち込みが一段と増し、厳しい経済状況を反映した結果となっている。

今年度調査した遺跡について年代順に概要を報告する。

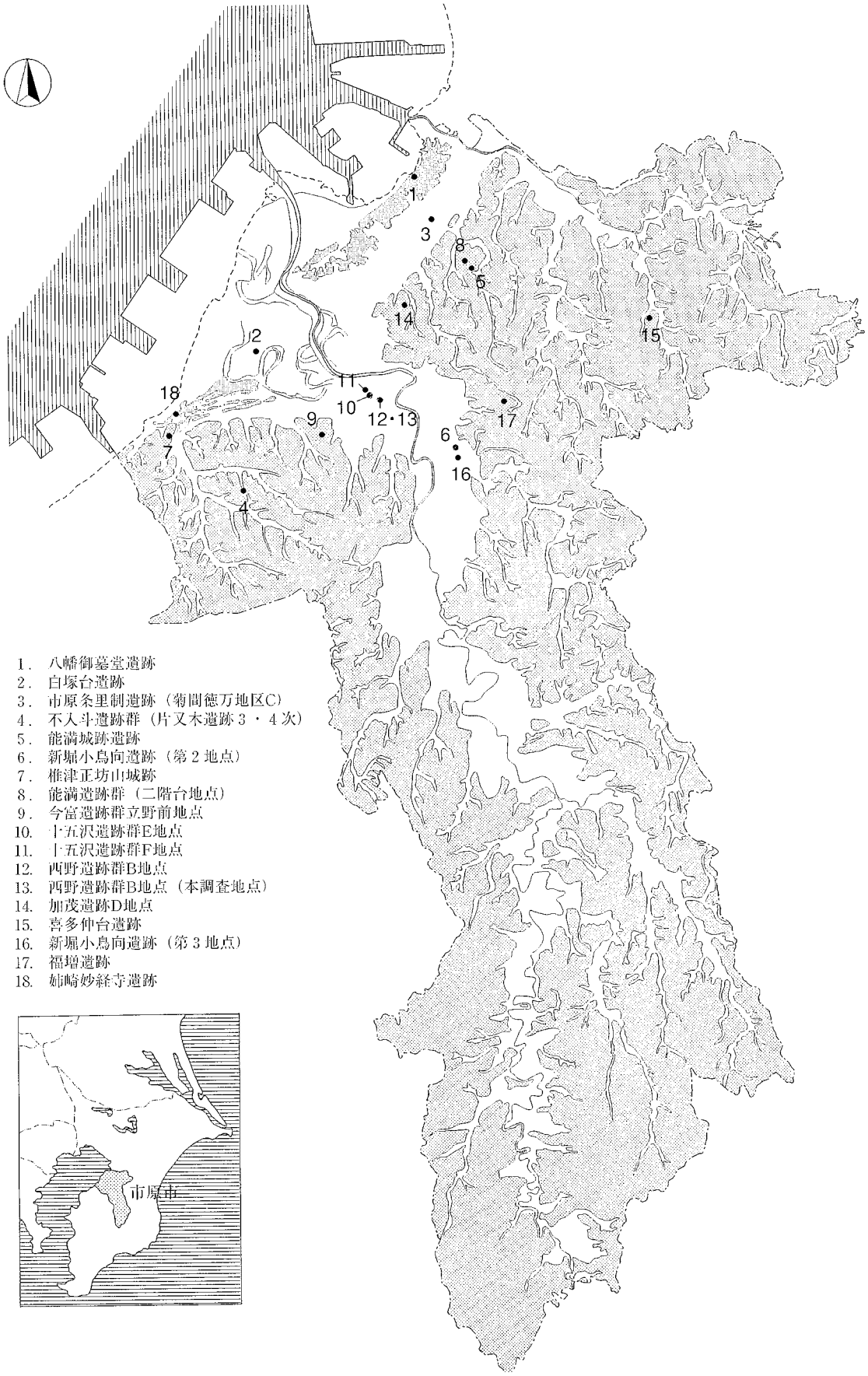
縄文時代では、喜多仲台遺跡で早期末葉の落し穴、中期後葉の竪穴住居跡３軒、小竪穴が発見されている。数少ない村田川上流域での調査事例を追加したことになる。加茂遺跡Ｄ地点で後期前葉の土器埋設遺構のほか、草創期の尖頭器２点が出土している。また、不入斗片又木遺跡では早期末葉の遺物包含層を、福増遺跡で中期後葉の竪穴住居跡１軒が発見されている。海岸部の砂堆列上に位置する姉崎妙経寺遺跡では、中期初頭の五領ヶ台式土器や土器片錘が出土する遺物包含層を検出し、縄文時代の海進・海退現象と地層の形成を探る上で、貴重な資料を追加した。

弥生時代では、加茂遺跡Ｄ地点で合計11軒の竪穴住居跡が発見されている。中期後半に集落が成立しており、後期・後期末の建物が散見される。能満遺跡群二階台地点で後期後葉の竪穴住居跡３軒が発見されている。遺跡のある台地上では今回が初めての調査例であり、範囲が狭小であった割には遺構数が多いことから、遺構密度の高さが窺える調査となった。

古墳時代では、加茂遺跡Ｄ地点で、中期後半から後期後半の集落跡を調査している。竪穴住居ではカマド出現期の遺構や住居廃絶時の状況をよく示す遺構が存在する。遺物では須恵器模倣精製土器や滑石製臼玉、線刻のある紡錘車などが出土している。須恵器模倣精製土器は、市内でも出土例が少なく、東国への須恵器の波及過程を考える上で興味深い。不入斗片又木遺跡では前期初頭の方形周溝墓群と竪穴住居跡を検出している。姉崎妙経寺遺跡では、砂丘列上に円墳を主体とする古墳群の第６次調査を行い、前回までに調査した古墳３基の周溝の延長部分のほか、新たに１基の周溝を確認した。また、新堀小鳥向遺跡では後期の集落跡の調査を行い、竪穴住居跡７軒が検出された。

奈良・平安時代では、西野遺跡群、十五沢遺跡群の確認調査及び一部本調査を行い、掘立柱建物跡の一群や井戸跡が検出されている。掘立柱建物跡は西野遺跡群Ｂ地点にまとまっており、建物方向に共通性が認められている。調査対象地は、古代上総国海上郡衙関連遺跡の一角にあたることから、建物群の性格やその広がりなど、今後の調査の進展が期待されるところである。

中世以降では、能満城跡で土塁、堀跡など城郭に関係する遺構のほか台地整形区画遺構が検出されている。調査区は城域の南辺部にあたる地区で、改修に伴って幾度かの手が加えられたようである。堀跡から14世紀頃の中国産を含む陶磁器類やカワラケ等が出土したほか、台地整形区画遺構からは地下式土坑、土坑及び16世紀代の陶磁器類が出土している。新堀小鳥向遺跡では、前年度調査区に隣接する区域の確認調査を行った。竪穴遺構や土坑を検出したほか、鉄滓などの鍛冶関連の遺物が出土し、中世鋳物師の活動を裏付ける資料が追加された。その他、八幡御墓堂遺跡・青柳白塚台遺跡・市原条里制遺跡など低地部に立地する遺跡の調査を行い、溝状遺構・土坑などが検出されている。



平成12年度　調査遺跡位置図

1．八幡御墓堂遺跡（やわたみはかどういせき）

事 業 名　八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

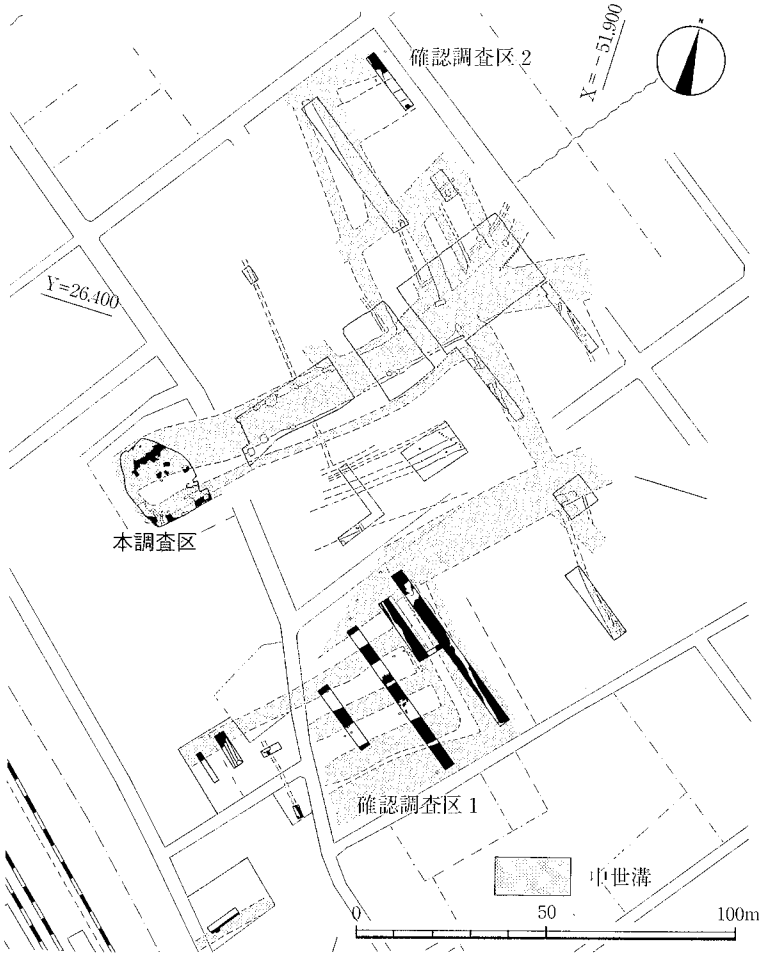
所 在 地　市原市八幡905-2ほか（確認調査）、八幡814番地（本調査）

調査期間　平成12年8月1日～平成12年11月24日（確認調査）
平成12年5月22日～平成12年7月31日(本調査)

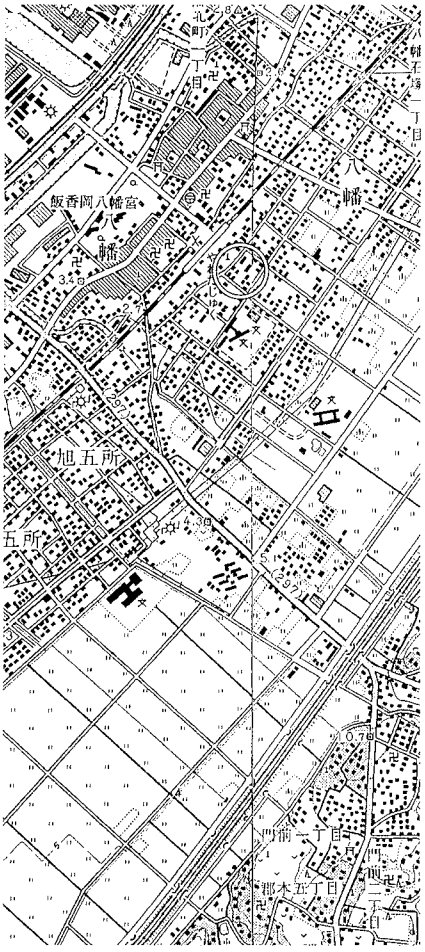
調査面積　499㎡／4,992㎡（確認調査）、および732.69㎡（本調査）

調査概要　遺跡は村田川と養老川に挟まれた海岸平野に立地する。とくに本調査を実施した地区は、中世に栄えた旧霊応寺境内墓地として知られ、中世墓域の検出が予想されていた。

今回の調査では、中世溝17条・土壙4基・土抗2基などが検出された。これらの溝は、砂堆列上の房総往還に平行するものと、これに直交するものがある。いずれも排水目的と思われるが、畦畔は確認できなかったので、水田遺構か否かは明らかにしがたい。本調査区においては、近世以降の造墓行為で概ね破壊され、詳細を明確にしがたいが、土壙の検出から、墓域が戦国期まで遡ることが確認できた。遺物は多彩で、古瀬戸後期様式後半並行期にピークがあるようだ。常滑、瀬戸・美濃系陶器、南伊勢系鍔釜、青磁、白磁、染付、在地土器、銭などが出土した。（櫻井敦史）



遺構配置図（1：2,000）



遺跡位置図（1：25,000）

2．白塚台遺跡（しらつかだいいせき）

事 業 名　青柳海保線(青柳)建設工事に伴う埋蔵文化財調査

所 在 地　市原市島野960-1番地先

調査期間　平成12年10月25日～平成13年1月31日

調査面積　1,440㎡／14,400㎡（確認調査）

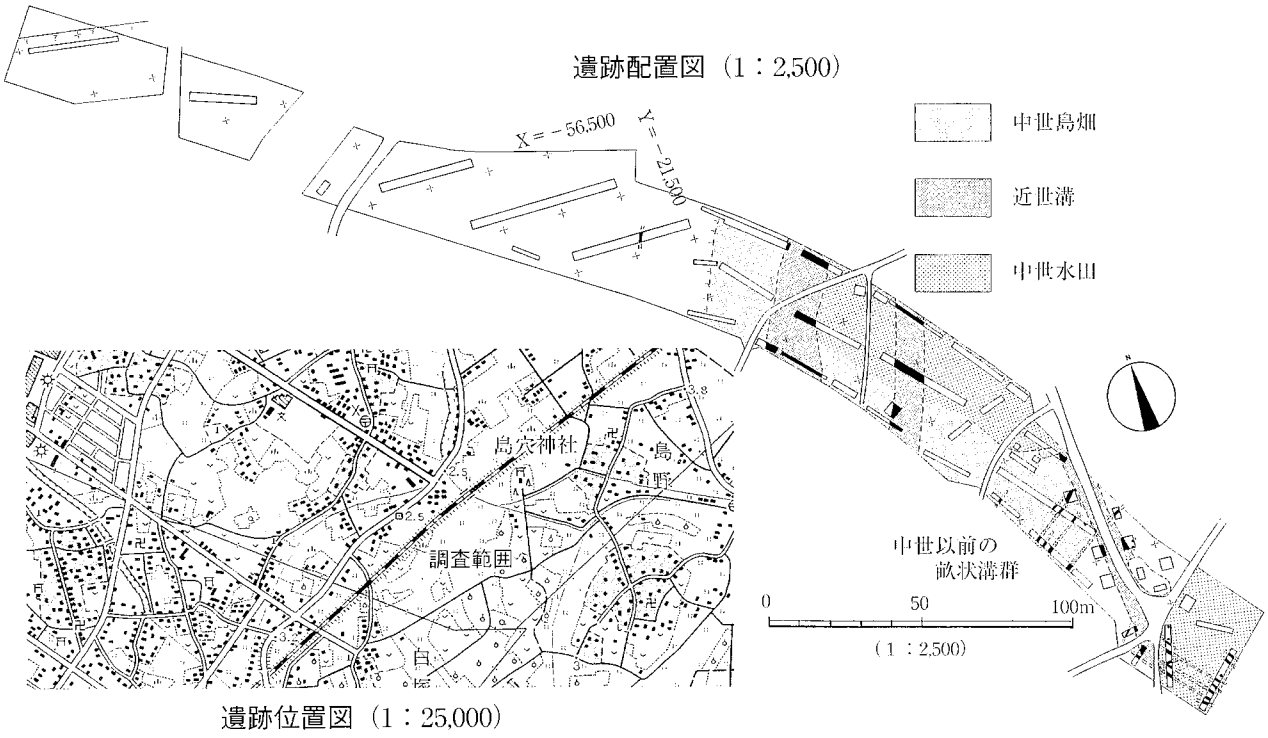
調査概要　遺跡は、戦前の旧東京湾岸に近い沖積低地に位置し、現在は水田と島畑に利用されている。

今回の調査では、時期不明溝14条と中世水田・島畑が確認された。溝は弥生土器を包含する洪水砂層を掘り込む。すべて浅く、群れをなして平行関係にあるため、耕作畝の残欠群である可能性が高い。弥生土器や古墳時代土師器が出土しているが、すべて流れ込みと思われ、遺構の正確な時期は不明である。ただし覆土自体は中世水田跡の床土より古いため、古代から中世まで遡ることは確かである。

中世の水田跡は新旧二期に大別できた。いずれも床土を残すが、畦畔を確認することはできず、遺物も全く出土しなかった。第Ⅰ期の水田は洪水によって埋没し、第Ⅱ期の水田が再開墾されているが、これと同時に盛土を実施し島畑を造っている。島畑の盛土中から瀬戸大窯期の擂鉢片が検出されたので、この第Ⅱ期を15世紀末以降と推測している。この時期に現在の景観が概ね形成されたものといえる。

本遺跡の調査は、これまでよく知られなかった中世における沖積低地の利用の変遷を追えた点、貴重な事例となった。とくにこの地域における現代農業景観への転換期を考古学的に明らかにできたことは、大きな成果であった。

（櫻井敦史）



遺跡位置図（1：25,000）

3．市原条里制遺跡（菊間徳万地区Ｃ）

事 業 名　若宮都市下水路築造工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託

所 在 地　市原市菊間6-2番地他

調査期間　平成12年7月6日～平成12年8月11日

調査面積　324㎡／3,240㎡(確認調査)

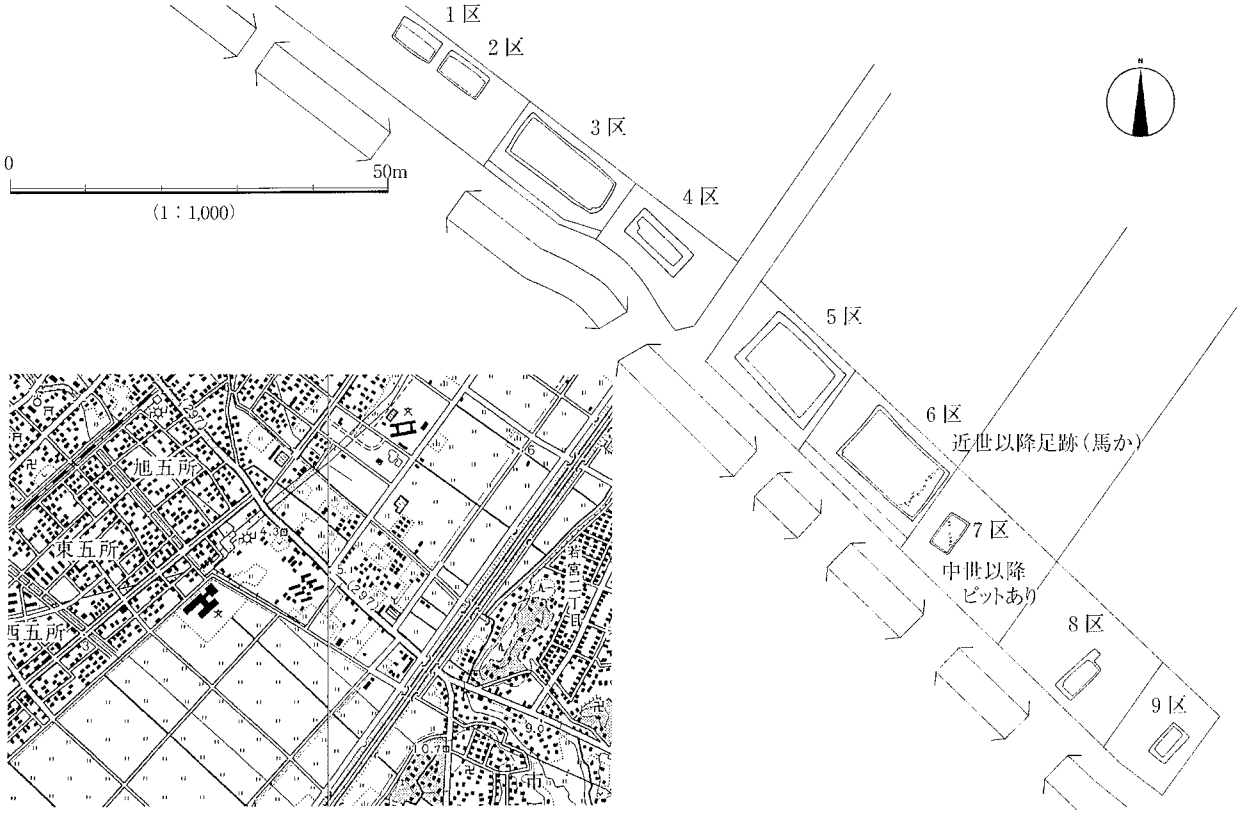
調査概要　遺跡は村田川・養老川に挟まれた後背低地に立地し、市原台地の小谷から東京湾に流れる小河川、新田川の右岸に接する。遺跡の一部については、（財）千葉県文化財センターが東関東自動車道や県立スタジアム建設に伴う調査を実施し、弥生中期から近世までの水田跡などを検出している。

いっぽう、平成７年度から（財）市原市文化財センターも、八幡砂田地区・菊間徳万地区など5地点において調査を実施し、古代疑似畦畔や中世畦畔などを検出している。今回の調査区は、菊間徳万地区Ｂ（平成11年度調査で中・近世畦畔が確認された）を２地点に分断していた空隙部を対象とした。

今回の調査においては、縄文土器、弥生土器、奈良・平安時代土師器・須恵器、中・近世陶器、瓦、土錘、砥石、鉄製品、北宋銭、木製品などが出土した。遺物的には、これまでの市原条里制遺跡調査事例に認められる出土様相に類似する。しかし遺構については中世以降のピット列を検出するに止まり、畦畔も確認できなかった。

(北見一弘)

遺跡位置図（1：25,000）



遺構配置図（1：1,000）

4. 片又木遺跡（第3・4次）

事 業 名　市道110号線(不入斗)埋蔵文化財調査委託

所 在 地　市原市不入斗上大高268番地ほか

調査期間　平成12年11月1日～平成12年12月19日（第3次）
　　平成12年1月8日～平成13年3月22日（第4次）

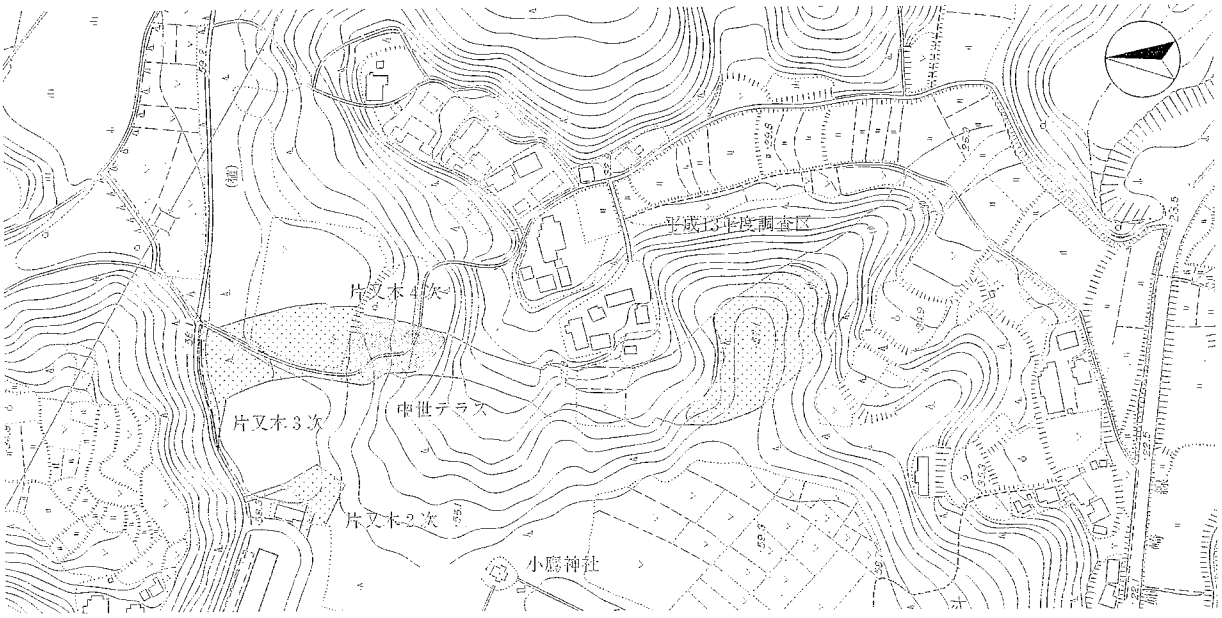
調査面積　1,260㎡（第3次）、および2,510㎡（第4次）（確認・本調査）

調査概要　遺跡は、椎津川の支流、片又木川と不入斗川に挟まれた、標高約25mの台地上に立地する。

調査の結果、第3次については縄文時代早期包含層、土抗14基、古墳時代前期方形周溝墓3基、溝状遺構2条、古墳時代後期竪穴住居跡2軒、時期不明道路状遺構1条などが、第4次については縄文時代早期包含層1地点、炉穴1基、弥生時代後期竪穴住居跡3軒、古墳時代前期初頭方形周溝墓10基・溝状遺構2条、奈良・平安時代の1面廂付掘立柱建物跡1棟・道路跡2条・溝状遺構1条・土抗2基、鎌倉期台地整形遺構1地点ならびに複数の大規模掘立柱建物跡などが検出された。　(北見一弘)

中世テラス遺構配置図（1：250）

遺跡位置図（1：25,000）



遺跡周辺地形図（1：5,000）

※遺構配置図・地形図は『平成13年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨』千葉県文化財法人連絡協議会発行2002　から引用した。

5．能満城跡遺跡（のうまんじょうあとい せき）

事 業 名　市道241号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）

所 在 地　市原市能満1144番地１ほか

調査期間　平成12年６月19日～平成12年８月18日

調査面積　900㎡（本調査）

調査概要　平成11年度確認調査の対象区域4,200㎡のうち、北側部分の1,750㎡が本調査対象面積となった。そのため平成12年度調査は、本調査区域の南半分を調査することになった。遺跡の立地環境、字切図等は前年度年報に記載掲載しているので、ここでは改めて述べないこととする(3)。今回の調査区は、南は現能満公民館（旧薬師堂跡）西側部分から北部分となっている。北は旧関東第Ⅸ座標X＝－54km285mの東西限界線までの中世の方形区画墓域の40号中間までである。したがって中世の塚100号は今回の調査では含まない(1)。

周辺遺跡位置図は「第一軍管区地方二万分の一迅速図原図」の千葉県上総国市原郡八幡村及菊間村の一部に主要遺跡、中世時期遺跡を重ねたものである。原図のため記号や編集が行なわれていない。そのため水田は水、畑地は畑と記載され、余分な畦畔等もなく地図地形が理解しやすい。①は当遺跡調査位置、②は能満城跡、③は府中日吉神社、④は天神社、⑤郡本古甲（古い国府？）、⑥郡本八幡神社前（字 長ノ代）、⑦字 在長面、⑧字 井隅（夷隅郡？）、⑨字 上細工田、⑩白船城跡、⑪市原城跡、光善寺廃寺（郡名寺？）、⑫柳楯神事（旧柳採集地）、⑬市原条里制遺跡道路跡（柳楯神事旧経由通路）、⑭飯香岡八幡神社（現上総国総社）、⑮飯香岡八幡神社別当寺（霊応寺）、⑯山木城跡である。小河川ではあるが新田川の流域は、海岸平野にある市原条里制遺跡と背後にある台地と谷津田を含み、古代から中世にかけて歴史地理的に、明らかに密接な関係を有している地域である。

能満城跡遺跡全体図は、道路建設路線内の隣接地域に明確な地上遺構が存在するため、平成11年度現況の空中写真測量の為の写真撮影を行ない、平成13年度に路線東側部分の図化を行なった。平成12年度に調査した１号溝状遺構の北方向延長位置に、平行する土塁と、一段低い堀状の窪地が確認できる。現況土塁は住宅建設前にはさらに南側に延びていたことが、聞き取り調査で判明している(2)。

能満城跡遺跡全体図は平成11年度に空中写真測量の撮影をし、平成13年度調査時に図化したものと、13年度までの調査成果をまとめたものである。平成12年度調査は、１号から、32、11、26、28号までの溝状遺構が、城館跡に関連すると考えられる。１号は明らかに座標北方向に延びており、平行する土塁も顕著に存在している。

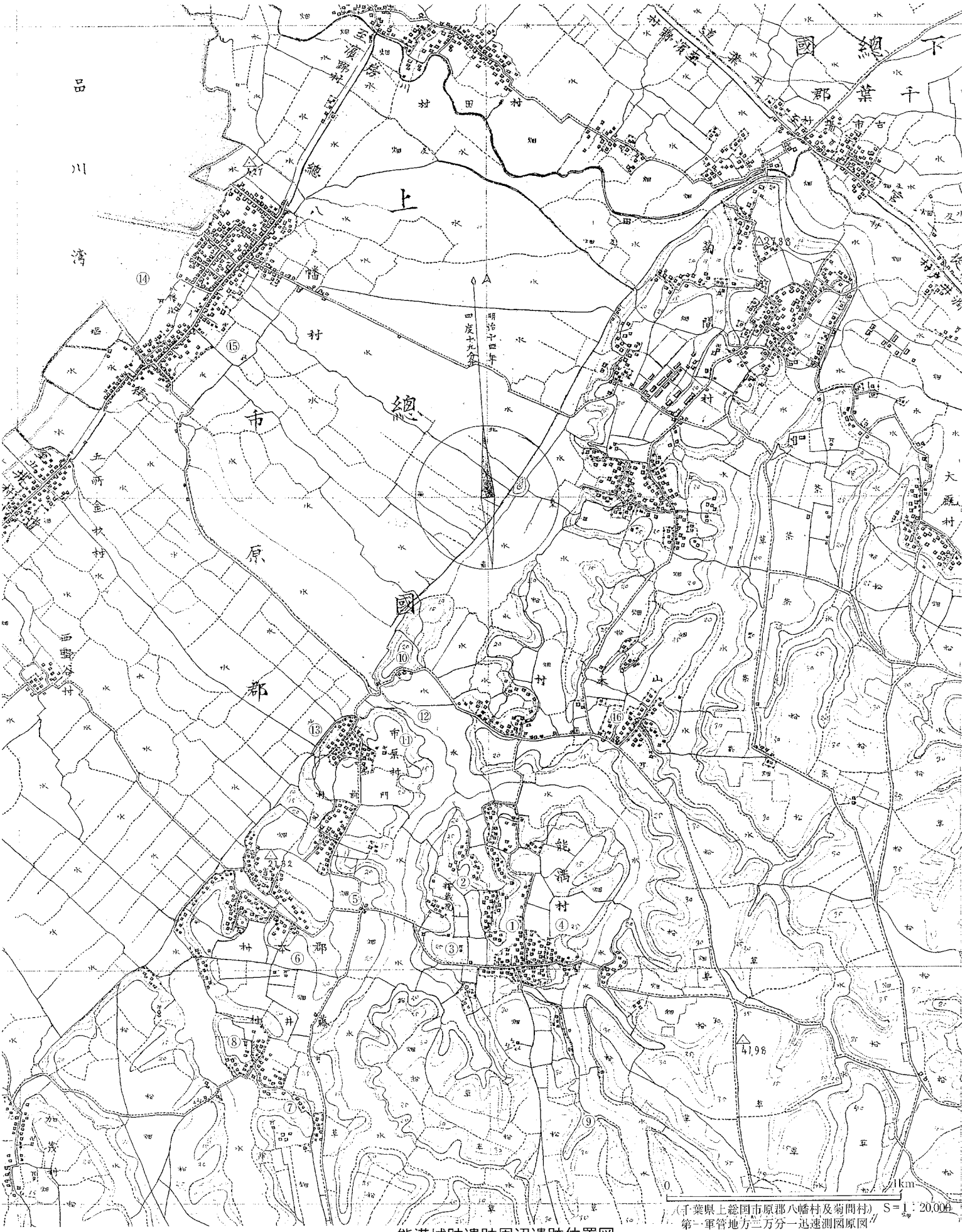
（近藤　敏）

引用参考文献

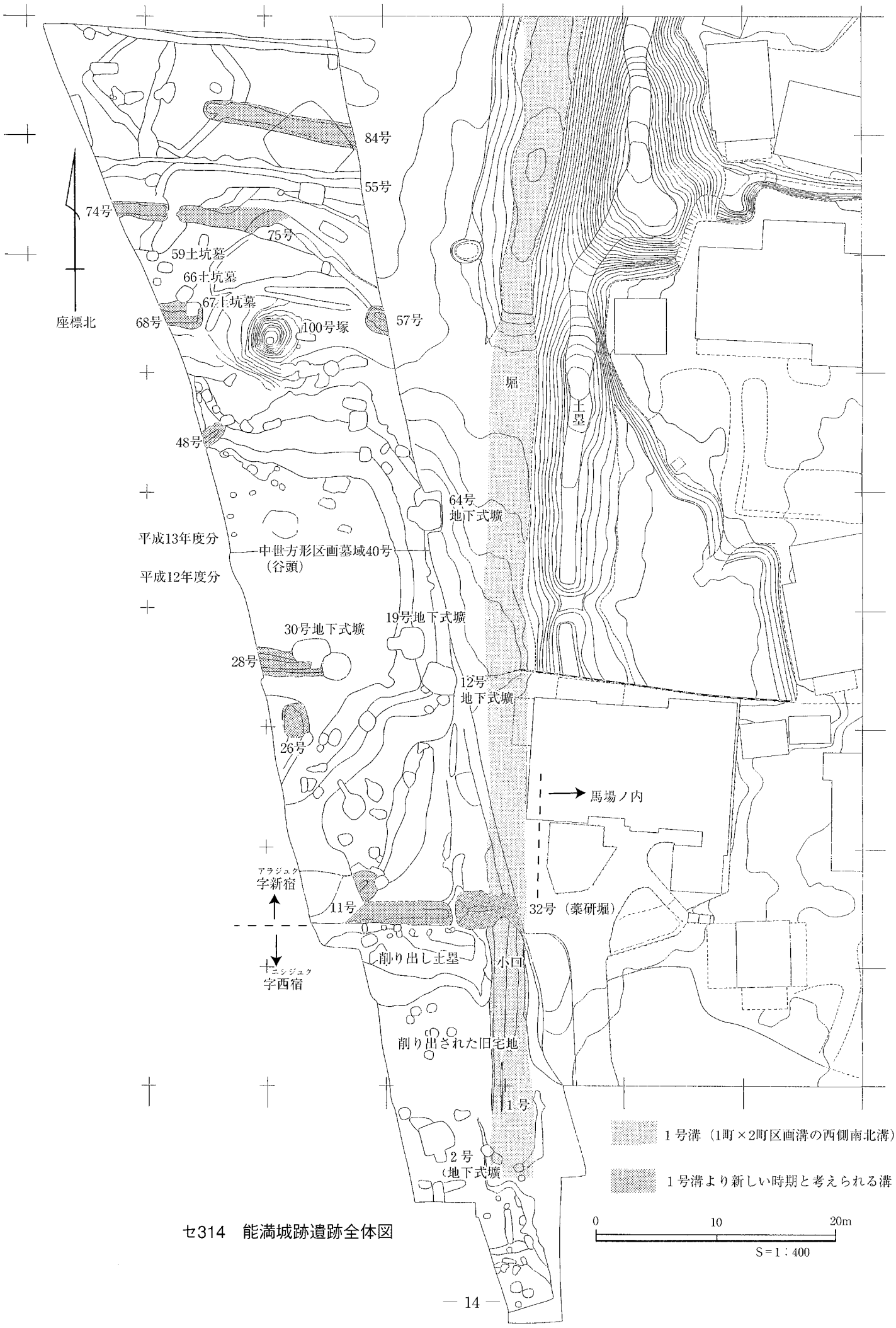
(1) 近藤　敏「能満城跡遺跡」『第16回　市原市文化財センター発表会用紙』2001．3（財）市原市文化財センター

(2) 近藤　敏「能満城跡遺跡」『第17回　市原市文化財センター発表会要旨』2002．3（財）市原市文化財センター

(3) 近藤　敏「28．能満城跡遺跡」『市原市文化財センター年報　平成11年度』2002．3（財）市原市文化財センター



能満城跡遺跡周辺遺跡位置図



セ314　能満城跡遺跡全体図

6. 新堀小鳥向遺跡（第2地点）

事 業 名　市道5078号線(新堀)埋蔵文化財調査委託

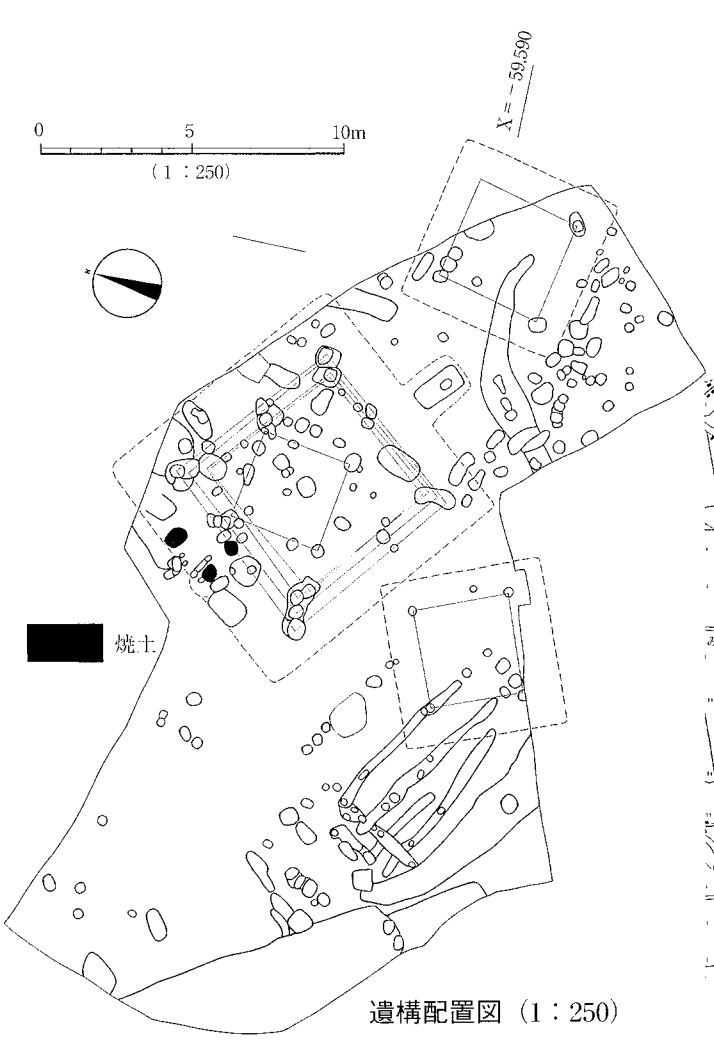
所 在 地　市原市新堀802-1番地先

調査期間　平成12年5月22日～平成12年5月25日（確認調査）
　　平成12年5月26日～平成12年6月8日（本調査）

調査面積　上層116㎡／1,156㎡・下層12㎡／1,156㎡（確認調査）、610㎡（本調査）

調査概要　遺跡は養老川下流域右岸の標高約20m程度の河岸段丘に位置する。遺跡の一部は平成11年に調査され、古墳時代前期の方形周溝墓などが発見されている。

今回の調査の結果、古墳時代後期竪穴住居跡7軒、時期不明溝状遺構2条を検出した。このなかで、3回以上の建て替えが考えられる、柱穴間6mを測る大型の竪穴住居跡1軒が検出されており注目される。全体的に攪乱が深く、遺構の依存状況が悪いため、確実に伴う遺物は少量にとどまった。しかし、古墳時代後期の住居跡が複数検出されたことで、先の2遺跡の成果をふまえると、この段丘面に、この時期の集落が広く展開してゆく可能性を示すものと考えられる。　（北見一弘）



遺構配置図（1：250）

遺跡位置図（1：25,000）

7. 椎津正坊山城跡（しいづしょうぼうやましろあと）

事 業 名　市内遺跡発掘調査

所 在 地　市原市椎津字北辺田537-1の一部

調査期間　平成12年4月18日～平成12年4月27日

調査面積　1751.31㎡のうちの190㎡（確認調査）

調査概要　調査区は椎津城跡・椎津茶ノ木遺跡の東側、「正坊山城跡」の南側に位置し、東斜面地である。調査区全体が谷の中であり、流入土の堆積が厚く、遺構の確認は難しい状態であった。遺構は正坊山に近いＫトレンチのみで検出され、土坑覆土からは古墳時代後期の杯が検出されたが、周囲からは常滑や青磁など中世の遺物が大半であり、14世紀代の所産と考えられた。詳細は下記文献を参照されたい。（牧野光隆）

「1. 椎津正坊山城跡」『平成12年度市原市内遺跡発掘調査報告』　2001　市原市教育委員会

8. 能満遺跡群二階台地点（のうまんいせきぐんにかいだいちてん）

事 業 名　市内遺跡発掘調査

所 在 地　市原市能満字二階台531

調査期間　平成12年5月8日～平成12年5月22日

調査面積　430㎡のうちの163㎡（確認調査・一部本調査）

調査概要　調査区は能満城主郭跡より南南西に40m、府中日吉神社より北に150mの台地上に位置し、標高は26～27mほどである。竪穴建物跡を5軒(弥生後期3、古墳後期2)と中世と思われる溝跡を１条検出した。そのうち古墳時代後期の竪穴1軒は完掘した。周辺は発掘調査事例に乏しい地域であり、中世以前の歴史の一部を垣間見ることができた点で評価されるものであろう。詳細は下記を参照されたい。（牧野光隆）

「2. 能満遺跡群 二階台地点」『平成12年度市原市内遺跡発掘調査報告』2001　市原市教育委員会

9. 今富遺跡群立野前地点（いまどみいせきぐんたてのまえちてん）

事 業 名　市内遺跡発掘調査

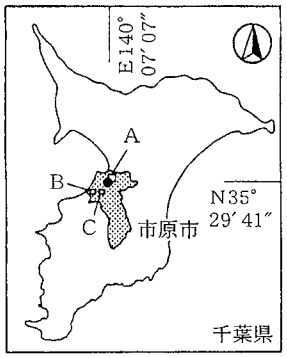
所 在 地　市原市今富字立野前925-1、925-2(一部)

調査期間　平成12年6月5日～平成12年6月16日

調査面積　1788.53㎡のうちの179㎡（確認調査）

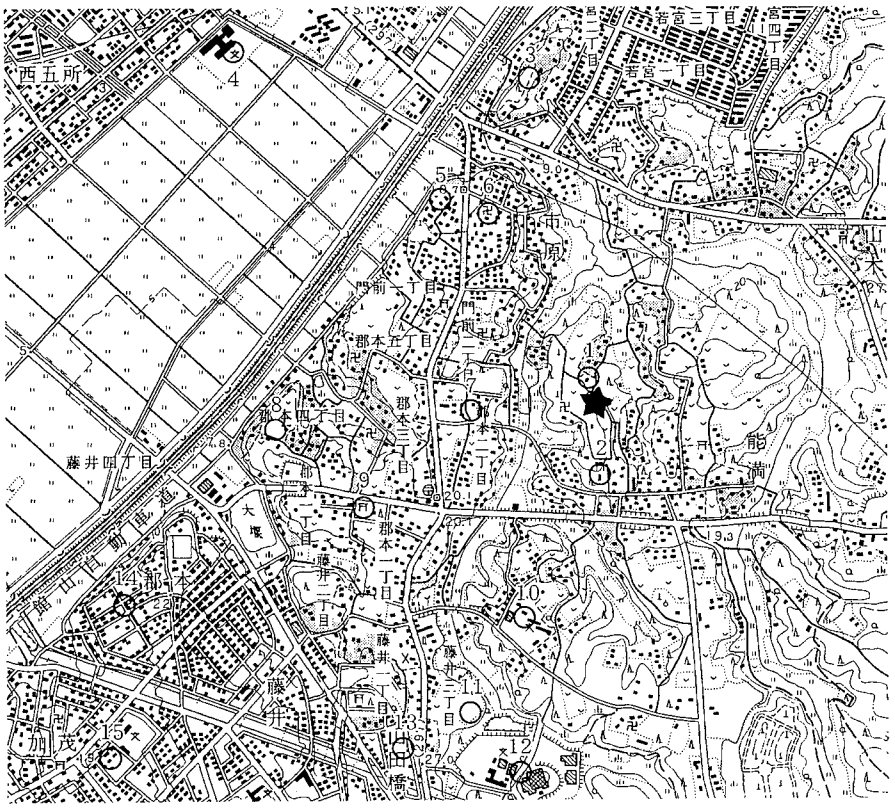
調査概要　調査区は今富塚山古墳から南に350mほどの丘陵裾下に位置する。「薬蔵院」跡と伝えられ、中世の五輪塔など石塔類が集積されていた。検出した遺構は、溝跡7条、土坑2基、井戸跡1基であり、溝跡1条以外は近世もしくは時期不明のものであった。遺物は近世陶磁器が多くみられ、薬蔵院もこれらの時期の寺であろうと推測される。詳細は下記の文献を参照されたい。（牧野光隆）

「3. 今富遺跡群 立野前地点」『平成12年度市原市内遺跡発掘調査報告』2001　市原市教育委員会

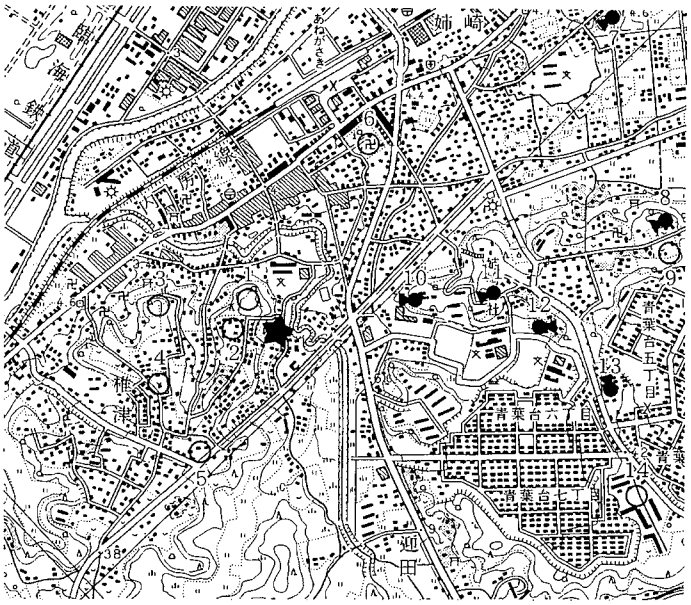


★ 調査区
1．能満城主郭跡
2．府中日吉神社
3．白船城跡
4．五所四反田遺跡
5．市原城跡
6．光善寺廃寺跡
7．古甲遺跡
8．三嶋台遺跡
9．郡本遺跡
10．唐崎台遺跡
11．郡本大宮遺跡
12．千草山遺跡
13．稲荷台遺跡
14．向原台遺跡
15．加茂遺跡

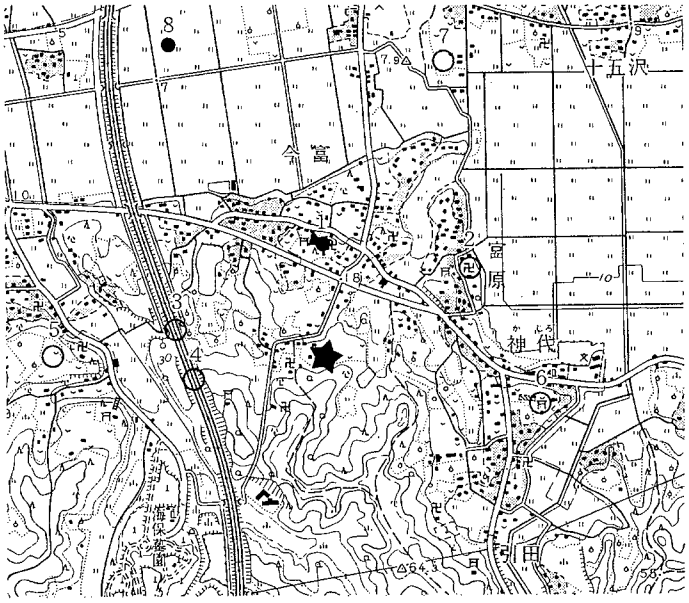
市原市地方史研究連絡協議会 1999
「市原市郡本周辺の遺跡と文化財」
唐崎台遺跡発掘調査団・市原市教育委員会 1979
「唐崎台」
㈶市原市文化財センター 1989
「千草山遺跡・東千草山遺跡」
1991「郡本大宮遺跡」
1998「市原城郭跡」



A．能満遺跡群二階台地点周辺遺跡



B．椎津正坊山城跡周辺遺跡



C．今富遺跡群立野前地点周辺遺跡

★ 調査区
1．正坊山城跡
2．茶ノ木遺跡
3．椎津城主郭跡
4．五霊台遺跡
5．尾崎遺跡
6．妙経寺遺跡
7．二子塚古墳
8．天神山古墳
9．東原遺跡
10．山王山古墳
11．釈迦山古墳
12．鶴窪古墳
13．原１号墳
14．六孫王原遺跡

千葉県教育委員会 1990
「千葉県中近世城跡研究調査報告書第10集　椎津城跡」
㈶市原市文化財センター 1992「椎津茶ノ木遺跡」
1998「五霊台遺跡」

★ 調査区
1．今富塚山古墳
2．宮原御所跡
3．今富遺跡
4．新山遺跡
5．海保城跡
6．神代城跡
7．今富廃寺跡
8．佐敷戸古墳

㈶千葉県文化財センター
1992「市原市今富塚山古墳確認調査報告書」
1998「市原市今富遺跡」

平成12年度市原市内遺跡発掘調査事業　調査区位置図（1／25,000）

10. 十五沢遺跡群（じゅうごさわいせきぐん）Ｅ地点

事 業 名　ほ場整備事業(県営担い手)海上地区埋蔵文化財調査業務(委託番号第７号)

所 在 地　市原市十五沢字土橋144・字堂庭170番地ほか

調査期間　平成12年 11月 30日～平成13年 3月 15日

調査面積　897㎡／17,940㎡（確認調査）

調査概要　十五沢遺跡群は養老川左岸の沖積平野に位置し、標高７ｍ～８ｍの河岸段丘上に所在する。市原市を南北に貫流する養老川は、国分寺台地区の市原台地南辺に行く手を阻まれ、大きく蛇行しながら西方向に流れを変える。養老川流路がおおよそ東西方向になった左岸南側の自然堤防上が、十五沢遺跡群である。遺跡は東西に長く分布し、河岸段丘が東西方向にあり北方向に段丘が下り、西方向に傾斜することになる(1)。十五沢遺跡群Ｅ地点は東側辺を西野遺跡群と接しており、海上郡衙推定地と隣接している。十五沢遺跡群内には、大字柳原・大字十五沢・大字小折の各集落があり、各集落に大鷲神社・白旗神社・大宮神社が所在しており、「コオリ」の地名から海上郡衙推定地でもあった。この地区は下三区とも呼ばれ、３村の結合が強く共同の行事も多いとされている。柳原在住の土地改良区関係者から地引絵図（改租図）の控を閲覧でき、写しを保管し、本年報西野遺跡群Ｂ地点未に掲載している。その図も３村一体の１面図である(2)。十五沢遺跡群Ｅ地点調査対象地区は、千葉県教育委員会の官衙関連遺跡第１次に、第８トレンチが設定されている(3)。当該調査では西野遺跡地区に、古墳時代後期から奈良平安時代までの遺構を検出しており、第８トレンチは字堂庭地区に当たり、近世時期の畦畔を検出している。

Ｅ地点北側辺部は、現養老川と平行する字島の水田部分旧河道に接している。堆積土壌の観察では古代の土壌が無く、中世時期までは河川氾濫部にあたっていたと考えられ、江戸時代のテフラが検出されるため、近世になって安定した耕地となったと推測される。古代土壌が流失した地点は、Ｅ11～Ｅ16トレンチからＥ1～4Ｅ、Ｅ17～Ｅ21、Ｅ25、Ｅ26トレンチの南西から北東方向の段丘面と考えられる。そのためこの部分は中世以前の遺構が、見当たらない。

Ｅ22・23・27・29トレンチには中世時期の溝状遺構が複数検出され、Ｅ28・30トレンチでは直径約２ｍ深さ1,5mの半円形の土坑が検出された。Ｅ30トレンチ内土坑では龍泉窯青磁碗片が発見され、中世前半期と考えられる。Ｅ28トレンチ内土坑2基も、同様な形態層序を有していた。Ｅ7～Ｅ9a・bトレンチには、平安時代と考えられる土師器椀片等がややまとまって出土し，Ｅ7トレンチでは古代の井戸状遺構が検出された。十五沢遺跡Ｅ地点は、養老川の影響をかなり受けた状態の地形制約があり、字子ノ津地名もあり河川交通の港湾地区の可能性も残している。　（近藤　敏）

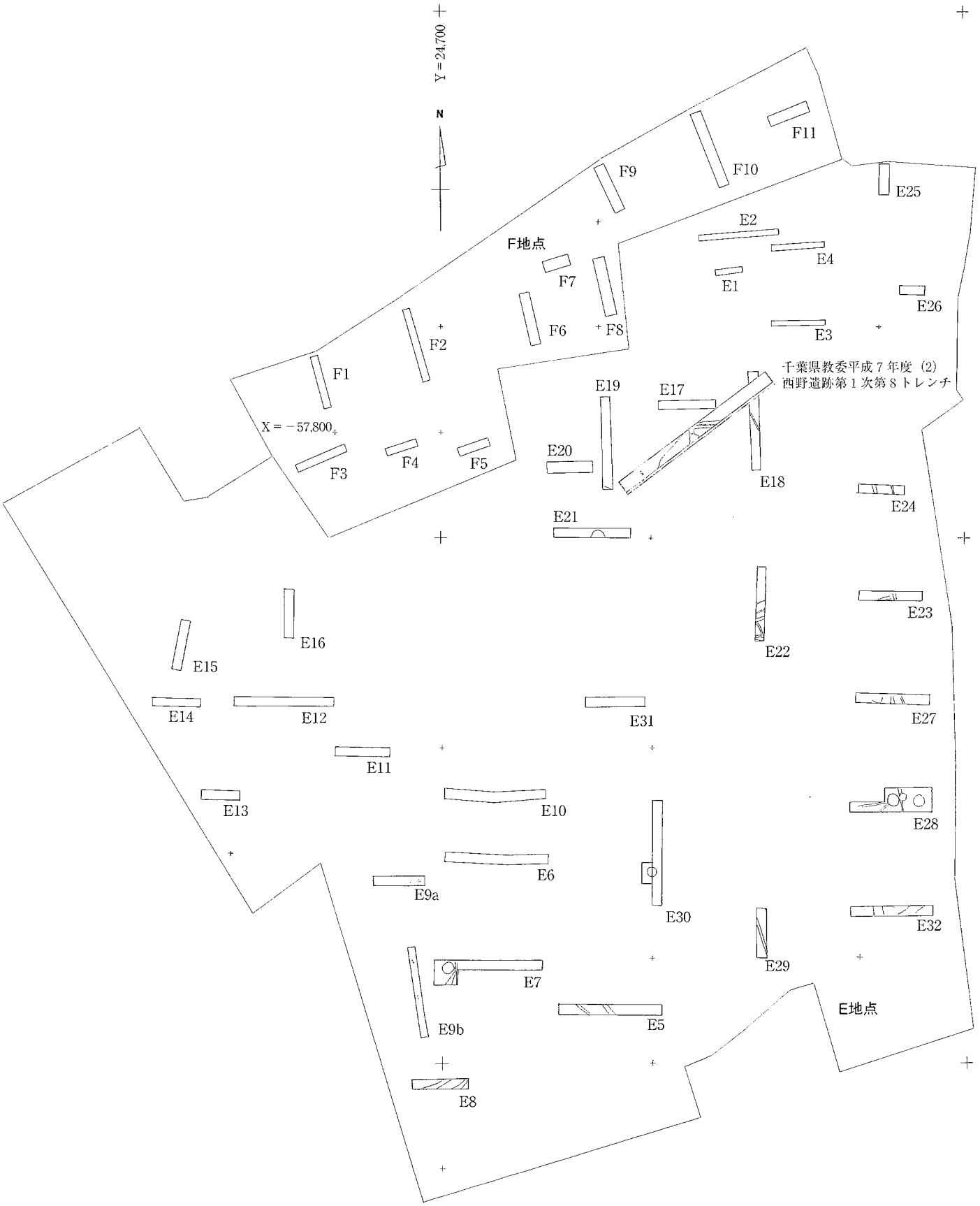
引用参考文献

(1) 近藤敏「十五沢坊ヶ谷遺跡Ａ地点第２次」『市原市文化財センター年報平成10年度』2001.3

(2) 山田安彦 「伝承地の地籍図」 特集:地籍図　『地理vol.25,no4.』1980.4 古今書院

佐藤甚次郎「明治前期の地籍図類の利用にあたって」 特集:地籍図Ⅱ『地理vol.28,no7』1983.7古今書院

(3) 高梨俊夫「Ⅱ調査の概要」『市原市西野遺跡第１次発掘調査報告書』1996.3 (財)千葉県文化財センター



十五沢遺跡群E・F地点確認トレンチ配置図（S＝1：1,000）

11. 十五沢遺跡群（じゅうござわいせきぐん）Ｆ地点

事 業 名　海上地区遺跡発掘調査事業

所 在 地　千葉県市原市十五沢字堂庭

調査期間　平成13年2月1日～平成13年3月6日

調査面積　3,560㎡のうち178㎡（確認調査）

調査概要　本事業は、海上地区のほ場整備に先立って、市が文化庁から補助金を得て行っているものであり、今年度は事業開始から４年度目にあたる。

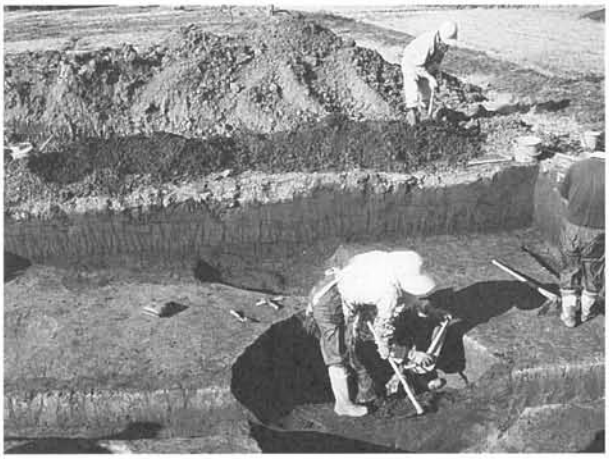
調査は十五沢および西野周辺の低地上に広がる十五沢遺跡群の内容を確認することを目的に行っており、今年度は養老川左岸の標高8mを測る微高地状を呈する3,560㎡（現況＝畑）の地点について、「十五沢遺跡群Ｆ地点」と呼称し、確認調査を実施した。

調査の方法としては、遺跡の規模と状況を確認するために調査対象面積の5%にあたる178㎡の調査区を設定した。調査区は、現況の土地利用状況に則して幅員1.5m程度のトレンチを任意に11か所設定し、これまでの調査成果との整合性を図るため各トレンチの基準杭に公共座標値を持たせるという方法で行った（P19・十五沢遺跡群E・F地点確認トレンチ配置図）。また、今回の調査では原則として重機を用いて表土除去を行ったが、一部重機の進入が不可能な梨畑部分については人力で表土除去を行った。

これまでの周辺の調査成果から、畑の耕作土下から古代および中世の溝状遺構などが検出されることが予想されたため、当該期の遺構・遺物の有無を確認することに重点を置いたが、どのトレンチにおいても河川の堆積作用による粒子の細かい砂が厚く堆積しており、奈良・平安時代の土師器・須恵器および中世の陶器などの磨耗した小破片が極めて少量出土しただけで、溝状遺構など遺構の存在は確認できなかった。

隣接して奈良時代の郡衙推定地が所在するものの、本地点についてはその周縁部にあたることが判明した。

（山田　貴久）



十五沢遺跡群 E地点調査風景

十五沢遺跡群 F地点調査風景

12. 西野遺跡群（にしのいせきぐん）Ｂ地点

事 業 名　ほ場整備事業(県営担い手)海上地区埋蔵文化財調査業務(委託番号第７号)(確認調査)

所 在 地　市原市字糸久字高島30・西野字中村470番地ほか

調査期間　平成12年 11月 30日～平成13年 1月 30日

調査面積　775㎡／15,500㎡（確認調査）

調査概要　位置図の①西野遺跡群Ｂ地点、②十五沢遺跡群Ｅ地点、③今富廃寺跡、④分目要害遺跡、⑤上総国分僧寺、⑥上総国分尼寺、⑦村上遺跡群村上地区、⑧式内社島穴神社となっている。確認調査平面図の遺跡範囲は、北半分は西野地籍、南半分は糸久地籍となり、境界には江戸時代後半に「杵宮権現」の石祠が糸久村氏子らによって建立され、水田に小型の塚を呈して現在も残されている。明治年間までは、西野と権現堂の地籍境にも⑨の「十二天神社」があったと、市原郡史は伝えている。

確認調査平面図は、平面直角座標の旧関東第Ⅸ系を使用してグッリド配置を決定した。そのため、図左上隅に、測地成果2000の座標値を併記している。遺跡範囲は逆Ｌ字形を呈し、東側が標高10m前後と高く、西方向に若干低くなり標高９～８ｍとなっている。調査区北側区域には掘立柱建物跡が４棟を検出し、付近の井戸状遺構からは奈良時代以降の須恵器・土師器坏が発見され、同時代と考えられる。遺構確認面は、黄白色砂質粘土層上面にあり、その上位に橙色スコリアを含む黒褐色粘質土包含層がある。黒褐色粘質土は遺構覆土にもなっており、奈良平安時代の遺物包含層でもある。

調査区南側の遺構確認面は、北側の古代時期と同様であり、溝状遺構１が北から東に若干傾き南北に走り、道路建設部分を本調査している。時期は中世前半の陶器片が出土しており、古代のものは少ない。ほかに溝状遺構２と３が検出されており、中世遺物が多く出土しているため、溝状遺構１と有機的に関連があると考えられる。２・３とも平成13年度に、排水路建設部分が本調査されている。中世鎌倉時代においては「今富保」との関連も想定され、海上郡衙推定地と共に西野遺跡が重要な部分を包蔵していることが明確になった(1)。

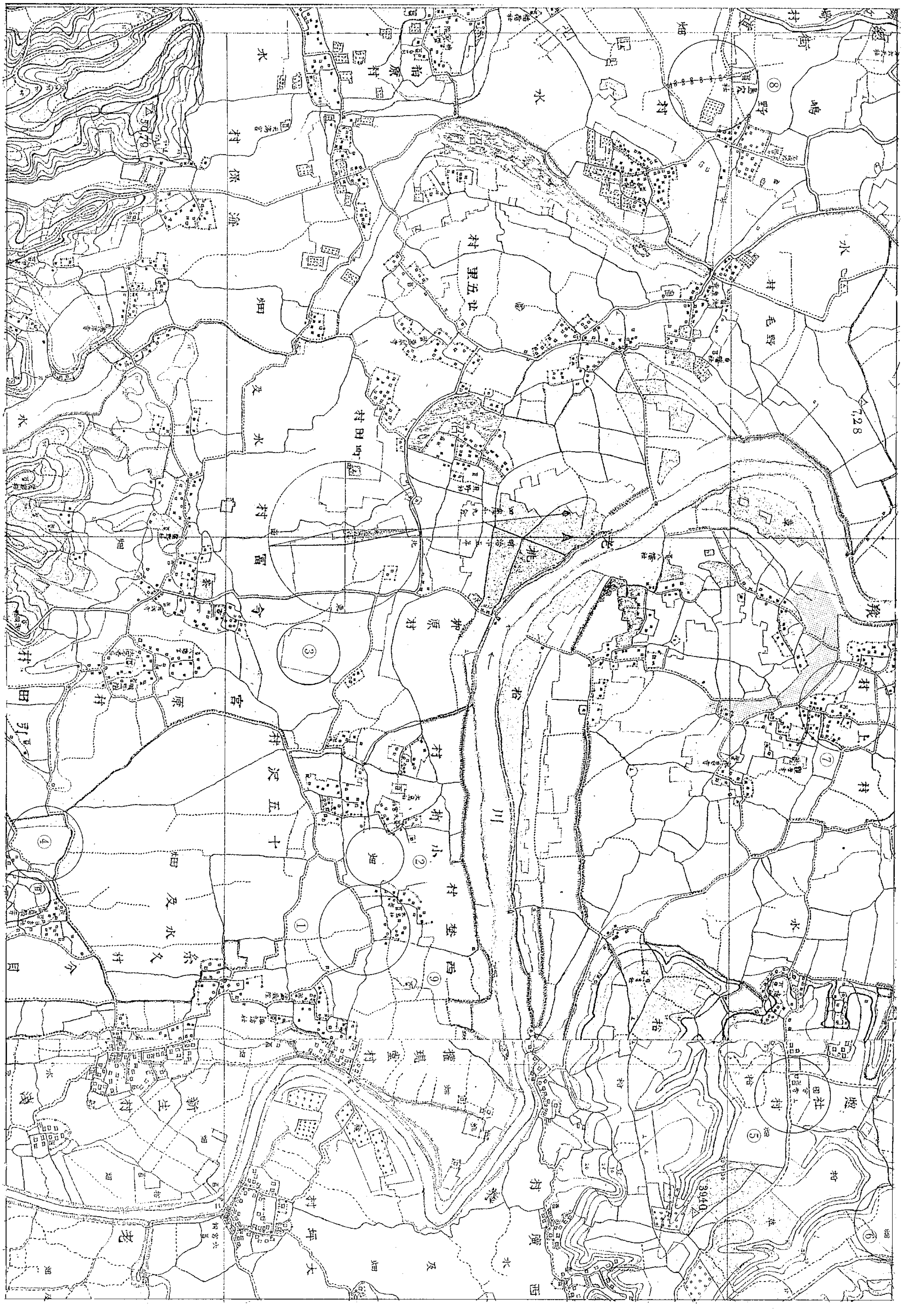
調査区北側の第28トレンチでは、古代遺構確認面の砂質黄褐色粘土層下に、黒色の腐蝕有機土層があり、縄文時代勝坂式土器がまとまって出土した。この出土層位は対岸の村上遺跡と同様であり、古代遺構の基盤層の砂質黄褐色粘土層が、縄文時代中期以降に成立したことを意味している(2)。

圃場整備事業地内は、大正年間から昭和初期にかけて耕地整理をされた地区であり、その耕地整理の成果が、確定図によって示されている。その耕地整理以前は、明治９年の改祖図（控え）によって明らかになった。それらは柳原在住の稲毛高敬氏によって保存されており、今回ご好意により写真等の写しを撮り、公開させていただいた。圃場整備事業は進行中であり、圃場整備にあわせて国道、市道の整備も進んでおり、古代中世の海上地区の解明が今後の課題である。　（近藤　敏）

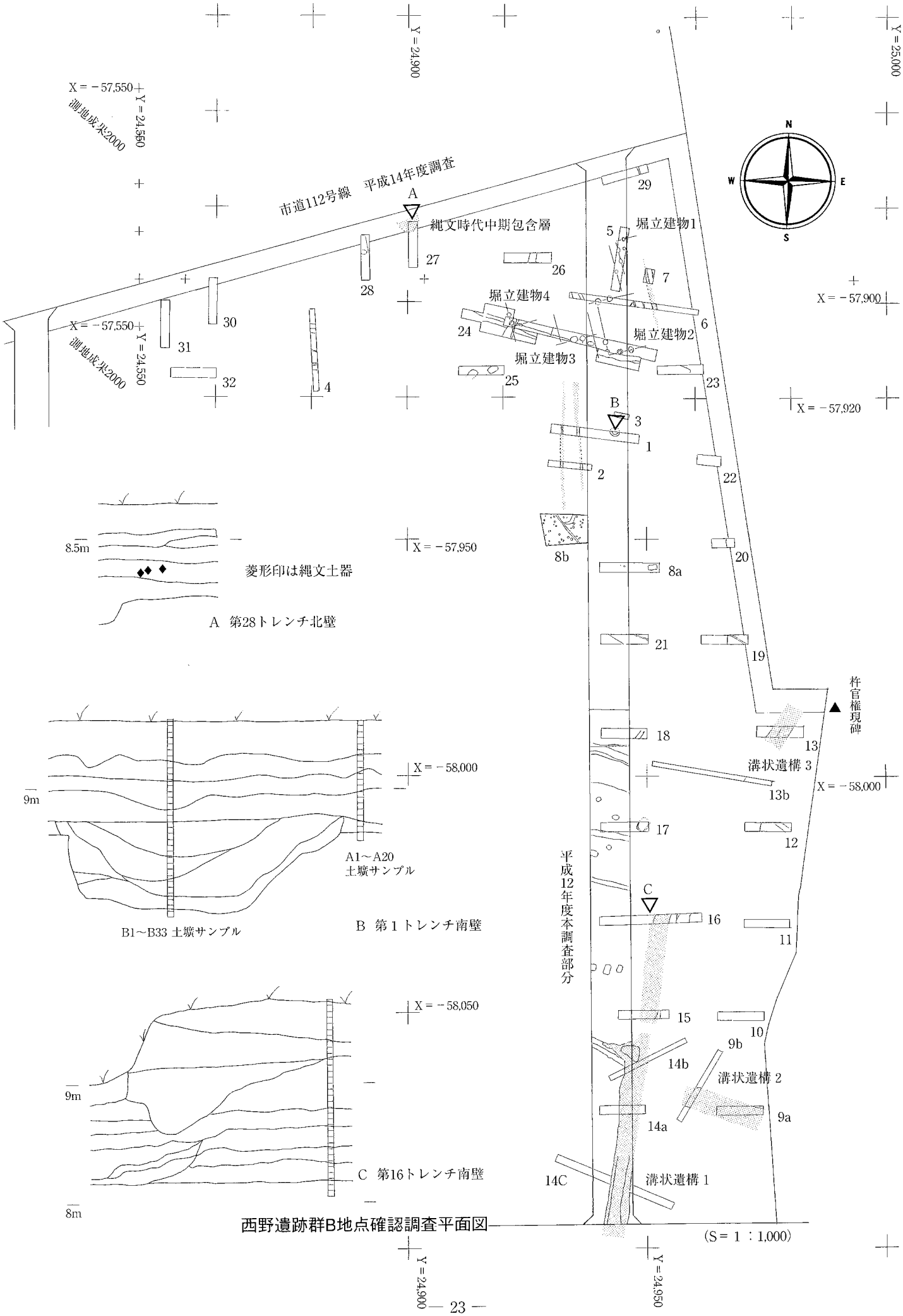
引用参考文献

(1) 高橋康男「十五沢坊ケ谷遺跡」『千葉県遺跡調査研究発表会要旨』2001千葉県文化財法人連絡協議会

(2) 小久貫隆史「縄文時代遺物包含層」『村上遺跡群埋蔵文化財調査報告書－市原市村上遺跡－』1997（財）千葉県文化財センター



西野遺跡群B地点・十五沢遺跡群E地点位置図（第一軍管地方二万分一迅速測図原案）S＝1：20,000



西野遺跡群B地点確認調査平面図

(S＝１：1,000)

海上村耕地整理確定図（大正年間～昭和初年）

柳原村改祖図（控）明治９年11月

13. 西野遺跡群（にしのいせきぐん）B地点

事 業 名　ほ場整備事業(県営担い手)海上地区埋蔵文化財調査業務(委託番号第8号)

所 在 地　市原市糸久字高島26-1ほか

調査期間　平成13年2月1日～平成13年3月27日

調査面積　900㎡（本調査）

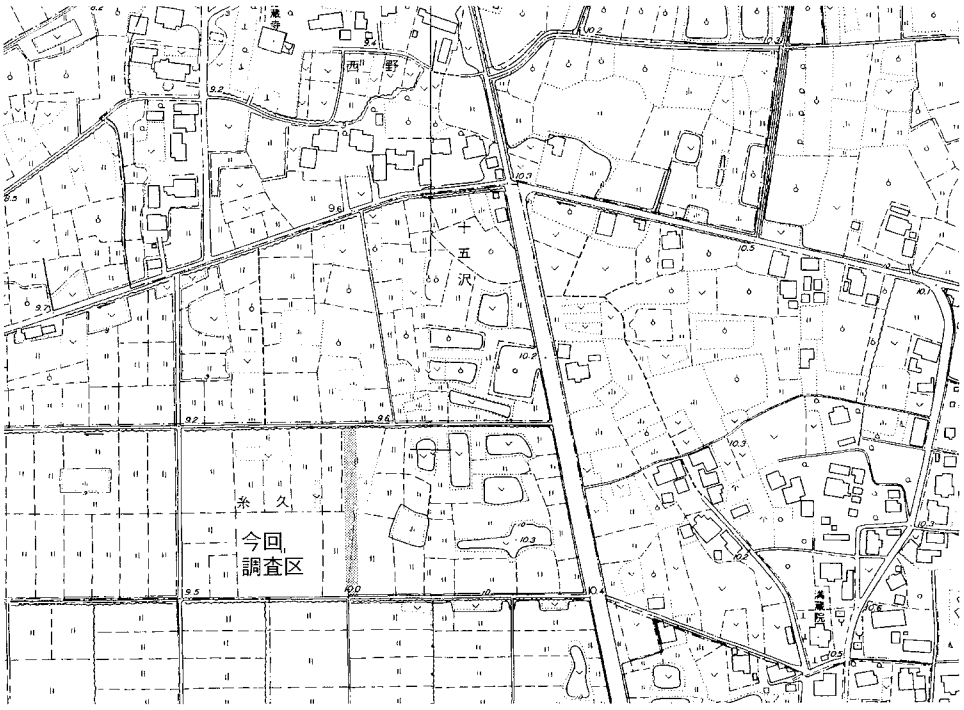
調査概要　養老川左岸の標高9～10mの沖積低地に位置する西野遺跡群は、これまでにも道路や店舗、農業基盤整備などのため、周辺において数回の発掘調査が行われており、上総国の海上郡衛跡と推定される遺跡である。今回の調査範囲は、遺跡範囲として周知されている最も南西側の部分であり、遺構密度が高く遺跡の中心部と想定される現在の西野交差点付近から、南西に220mほど離れている。

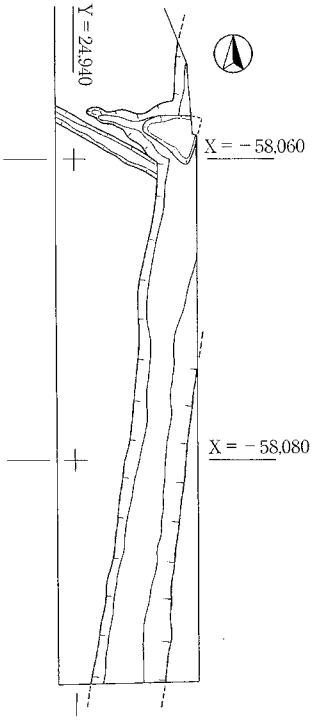
調査の結果、中世前半期の溝跡が3条、同時期の土坑1基、近世の溝跡が2条、時期不明の土坑7基が検出された。明確に奈良･平安時代であるといえる遺物が見当たらないことは、位置的に中心からはずれているせいと考えてよいであろう。

今回の成果としては、H25～H27グリッドにおいて、北北東から南南西にかけて斜めに(主軸N－8°－E)検出された溝跡と、その付属施設のように掘りこまれた平面三角形の土坑が挙げられる。溝跡の埋没土中から検出された遺物は、常滑や瀬戸、龍泉窯の青磁碗など、鎌倉期のものとみられる。

溝跡の規模は、検出総延長42.8m、上面幅3.9～4.8m、底面幅1.5～2.4m、深さ0.55～0.88mを測り、断面形状は逆台形状を呈するものである。掘り込まれた上面の幅に比べると、やや浅い感がある。底面は平坦面が多く、用途としては、灌漑などを目的とした排水もしくは導水路のような施設が考えられる。土坑は溝跡を検出した北端に位置する。土坑は深さ2.2mを測り、三角形の西側頂点部分より西方向にのびる小規模な溝跡も検出され、その用途は不明と言わざるを得ない。溝との関係も判然としない。次年度の調査によって、溝跡の直進方向約100mの地点を調査したが、検出されていない。溝跡はこのまま北に延びずに、東に逸れる可能性が高い。

（牧野光隆）





西野遺跡群B地点位置図（1／5,000）・調査区南半遺構図（1／500）

14. 加茂遺跡（D地点）

事 業 名　宅地開発に伴う埋蔵文化財調査（本調査）

所 在 地　市原市西国分寺台2丁目7番地17号他

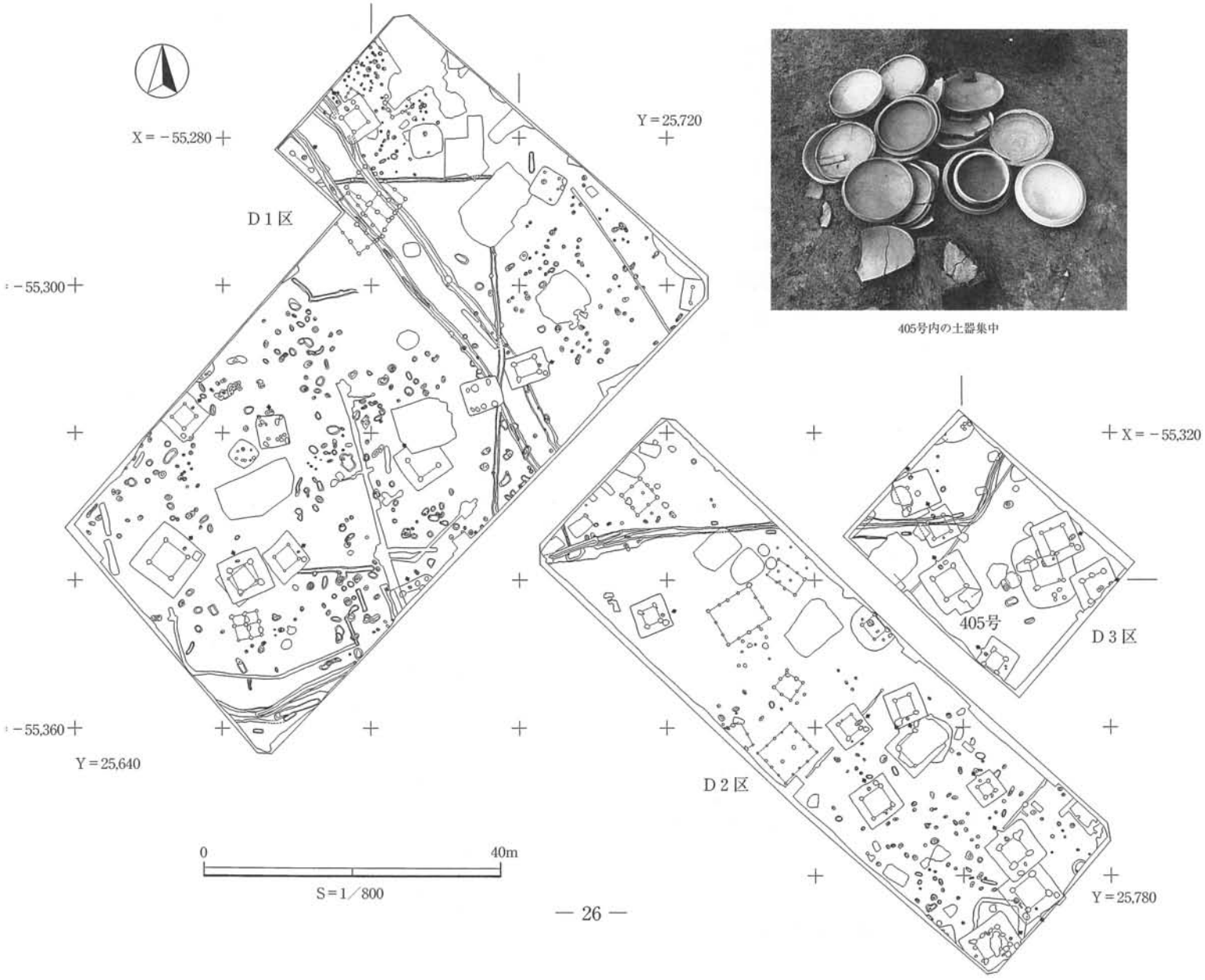
調査期間　平成12年4月17日～平成13年2月26日

調査面積　7220.96㎡

調査概要　今回の調査区は、国分寺台地区土地区画整理事業に伴って調査された加茂遺跡A・B両地点の南西にあたり、南側に谷を挟んで北野原遺跡に隣接する。前年度の確認調査では、A・B地点で検出された古墳時代後半を主体とする集落遺跡の広がりが確認されている。今回の調査結果はこの想定を大きく超えるものではなかったが、他の時代の遺構・遺物も少なからず検出され、当地区の変遷を考える上で重要な知見を得ることができた。調査はD1、D2南半、D2北半、D3の順に排土をスイッチバックしながら行った。また、調査終了後、年度末まで土器の洗浄と注記の一部をおこなった。

調査の詳細については、既に報告書が第82集として刊行されているので、そちらを参照願いたい。

（小橋　健司）



405号内の土器集中

15. 喜多仲台遺跡（きたなかだいいせき）

事 業 名　砂利採取に伴う埋蔵文化財調査

所 在 地　市原市喜多567-1の一部ほか

調査期間　平成12年6月15日～平成12年7月4日

調査面積　450㎡(本調査)

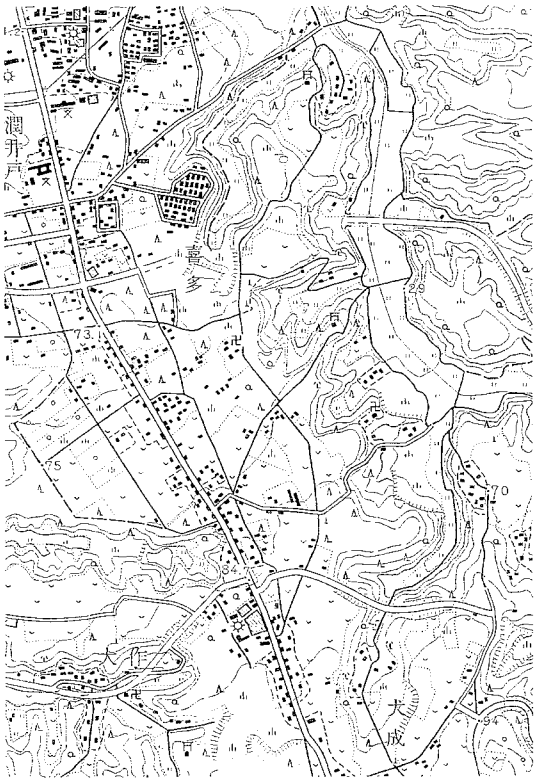
調査概要　遺跡は村田川中流域の一支谷に面する標高約70mの台地上に位置する。

調査の結果、縄文時代中期加曽利E式期の竪穴住居跡3軒、縄文時代中期土抗2基、縄文時代陥し穴2基、土抗2基、平安時代竪穴住居跡1軒が検出された。

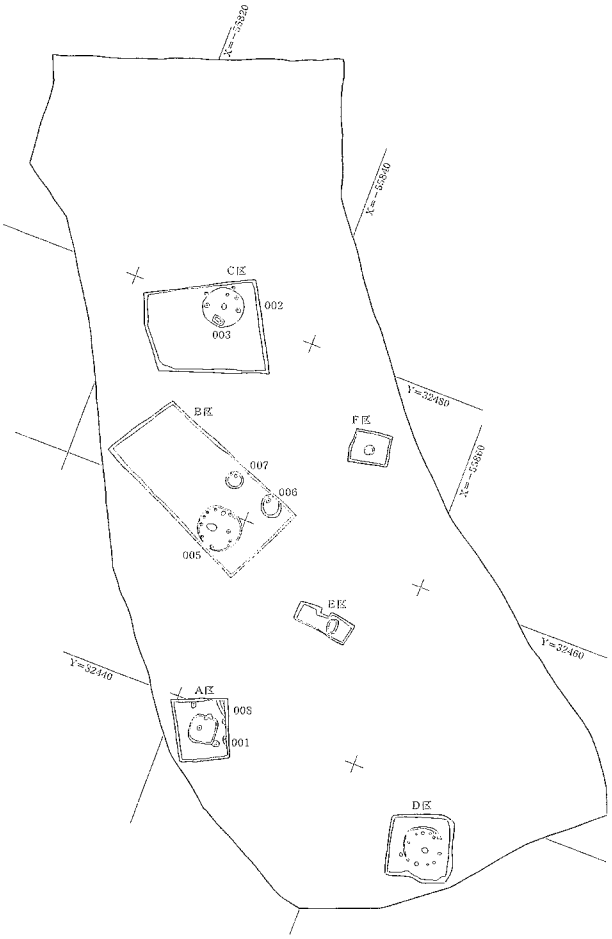
縄文時代の遺構については、調査例の少ない村田川中流域における中期集落として、貴重な事例となろう。また、平安時代住居から出土した遺物は一括投棄されたものと思われるが、量的に比較的豊富で、10世紀後半期の土器様式を示すものである。

なお、すでに調査報告書が刊行されているので、詳細については下記を参照されたい。(北見一弘)

北見一弘『市原市喜多仲台遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書　第75集、2001



遺跡位地図（1：25,000）



遺構配置図（1：800）

16. 新堀小鳥向遺跡（第３地点）

事 業 名　介護老人福祉施設あじさい苑建設に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）

所 在 地　市原市新堀字馬場９３８ほか

調査期間　平成12年９月11日～平成12年10月10日

調査面積　3936,79㎡のうち394㎡（確認調査）

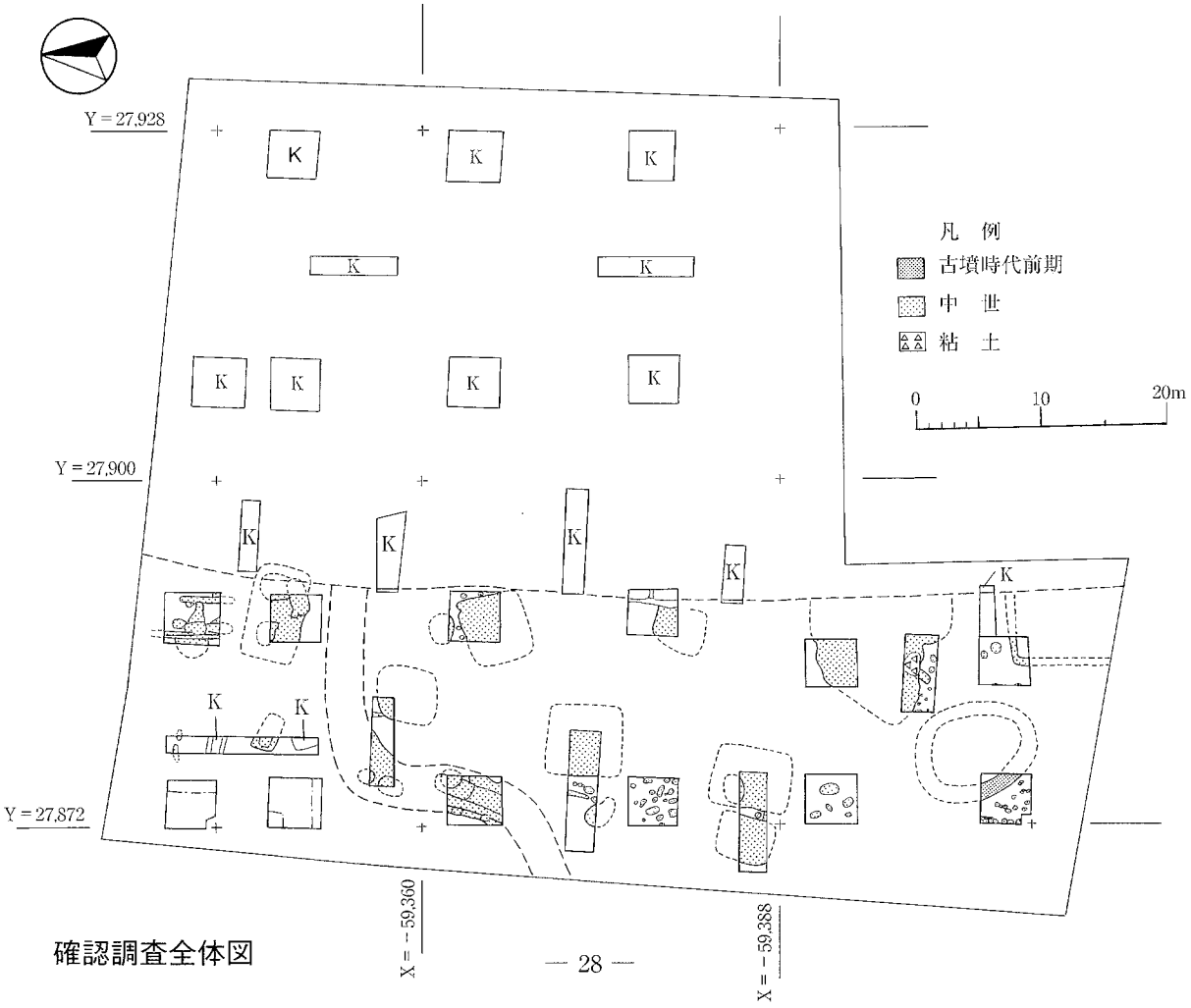
調査概要　当遺跡は、養老川中流域右岸の河岸段丘上に立地し、標高は約22mを測る。今回の調査は、確認調査で、調査対象地区3936,79㎡の約10%にトレンチを設定した。平成11年度に調査した今回の地区の南東側隣接地(230㎡)では、古墳時代前期の方形周溝墓や平安時代の竪穴住居跡、中世の鋳造関連遺構などが検出され、今回も同様な遺構の発見が予想された。

調査の結果、対象地域の東側大半は、深さ２～３m以上掘削され消滅しているとみられる。しかし、西側では遺構が残存し、古墳時代後期の円形周溝１基、中世の竪穴状遺構７基、窪状遺構１ヶ所、土坑17基、溝状遺構２条などが確認できた。特に、中世では炉壁や鉄滓が多く出土し、一部の遺構の床は粘土を貼った部分が検出された。これらは、金沢文庫所蔵文書にみられる「新堀の鋳物師」（14世紀中頃）に関連する可能性が高く、注目される。

なお、平成13年度に当該地区内の北西側740㎡の本調査を実施し、本報告書も刊行されている。

（田中　清美）

櫻井淳史「市原市小鳥向遺跡Ⅱ」2002（財）市原市文化財センター



確認調査全体図

17. 福増遺跡（ふくます いせき）

事 業 名　不特定遺跡発掘調査（県費補助分・補助対象外分）

所 在 地　市原市福増六萬部191-1番地ほか

調査期間　平成12年10月5日～平成12年10月17日

調査面積　6,130㎡のうち613㎡（確認調査）

調査概要　本遺跡は範囲が広く、福増遺跡として市原市文化財センター(1)と、千葉県文化財センターの発掘調査が近隣において行なわれている(2)。また近年道路路線以外に面的調査もなされている(3)。今回検出された遺構は縄文時代中期にあたる。以前調査の遺跡において検出された遺構に同時期ものはなく、当該時期の土器片や石鏃が少量採集されているにすぎない。縄文時代中期の遺跡としては、西側の侵刻谷を挟んではいるが、西方向約400mに環状貝塚の山倉天王貝塚が存在する。現在は谷は埋め立てられているが比高差20m以上の谷が当遺跡西側には存在していた(4)。

調査は樹間及び旧耕作地に限り巾2mほどのトレンチを設定して、遺構が確認された部分を拡張して調査区域を決定した。その結果、縄文時代中期後半の竪穴式住居跡と、同時期と考えられる土坑2基を検出した。基本土層は、旧耕作土である表土、古代時期と考えられる黒色土層、その下に縄文時代後期以降の時期と考えられる褐色土層がある。これは新期テフラと呼ばれるもので、この下に縄文時代中期の包含層になっている黒色土層がある。この黒色土層中、遺構検出周辺に中期縄文土器の散布がみられた。黒色土層下は褐色ローム漸移層、黄褐色ソフトロームとなる。遺構確認面は褐色ローム漸移層上面となり、縄文時代中期の遺構覆土は黒色土であった。

住居跡は円形プランを呈し、覆土上面に加曽利E3式時期の土器片を多く検出した。これらは住居廃絶後に廃棄されたものであろう。住居跡中央に地床炉があり、焼土が多くよく焼けていた。その炉には、土器の大型破片が半周ほど立ててあり、炉に付属して設置されたものと考えられる。土器片に以外に遺物はなく、石器等は検出されなかった。住居跡は小規模の為か主柱穴が検出されず、浅い穴と、出入り口と考えられる部分に二対の小規模な柱穴を検出したのみである。

土坑は、住居跡出入り口の外側2mに1基と、5m先に1基あり、遺物は検出されなかったが覆土の状態から同時期であると考えた。住居跡背後には黒色土の落ち込みがあったが断面観察の結果、風倒木痕と判断した。その他調査区域内からは縄文時代以外の時期の遺物は採集されなかった。

今回の調査区は分布地図(5)では山倉遺跡群となり、古墳群としては福増古墳群となる。調査開始時点に古墳群を予測したが、古墳の存在は確認できなかった。調査区は山倉地籍と福増地籍の境界に当たる。広い地区に数基の住居跡のみが存在する当該期遺跡は、近隣の山田橋遺跡群にもみられる。

引用参考文献

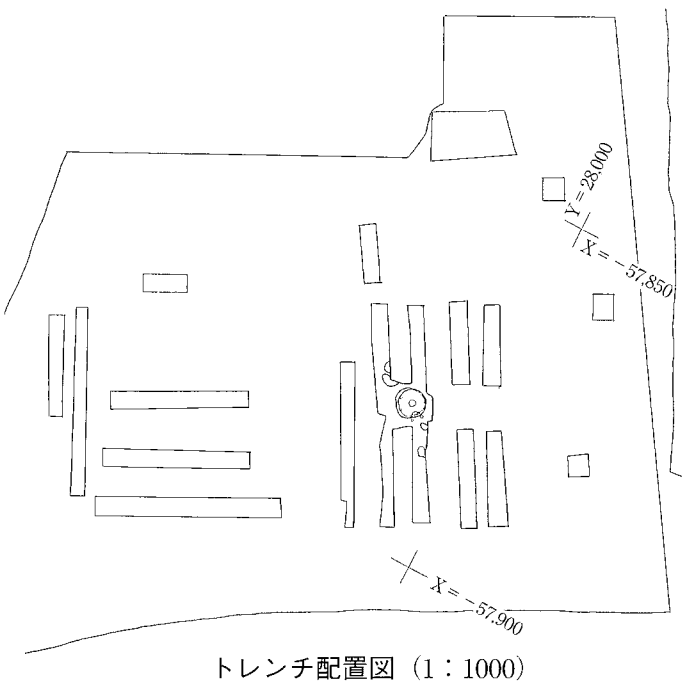
(1)田所　真『池ノ谷遺跡・福増遺跡』1985.3　市原市清掃施設課　(財)市原市文化財センター

(2)渡邊高弘・吉野健一『市原市福増遺跡』1999.3　千葉県土木部　(財)千葉県文化財センター

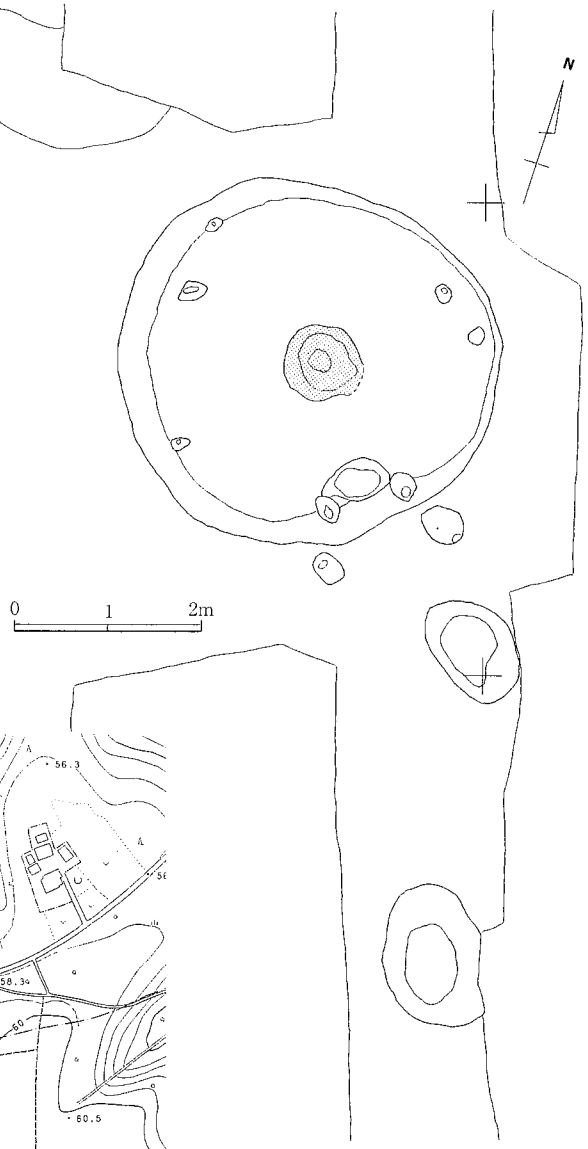
(3)田中清美・小川浩一「福増遺跡群大清水遺跡」『市原市文化財センター年報平成11年度』2002.3

(4)忍澤成視「山倉天王・堂谷貝塚」『市原市文化財センター年報平成元年度』1994.9

(5)「NO.52地図P80.P92」『千葉県埋蔵文化財分布地図(3)』1999.5 (財)千葉県文化財センター



トレンチ配置図（1：1000）



住居跡と土坑平面図（1：80）

福増遺跡周辺地形図（1：5000）

18. 姉崎妙経寺遺跡

事 業 名　姉崎駅前土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

所 在 地　市原市新堀802-1番地先

調査期間　平成12年10月11日～平成12年11月10日(確認・本調査)

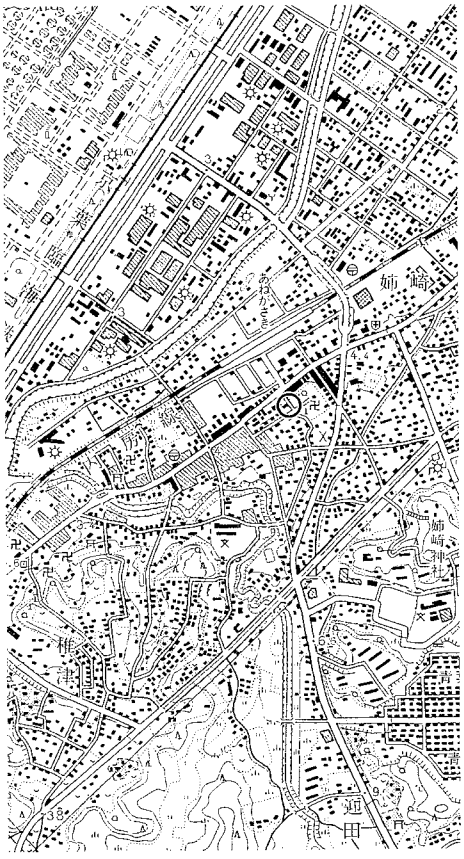
調査面積　76.8㎡／768㎡(確認調査)、および375㎡(本調査)

調査概要　遺跡は東京湾岸を縦断する海岸砂堆列上に位置する。平成7年度から発掘調査を実施しており、これまでも古墳や貝塚などが発見されている。今回の調査では、縄文時代中期初頭の遺物包含層と、古墳5基、中世土抗1基などが発見された。

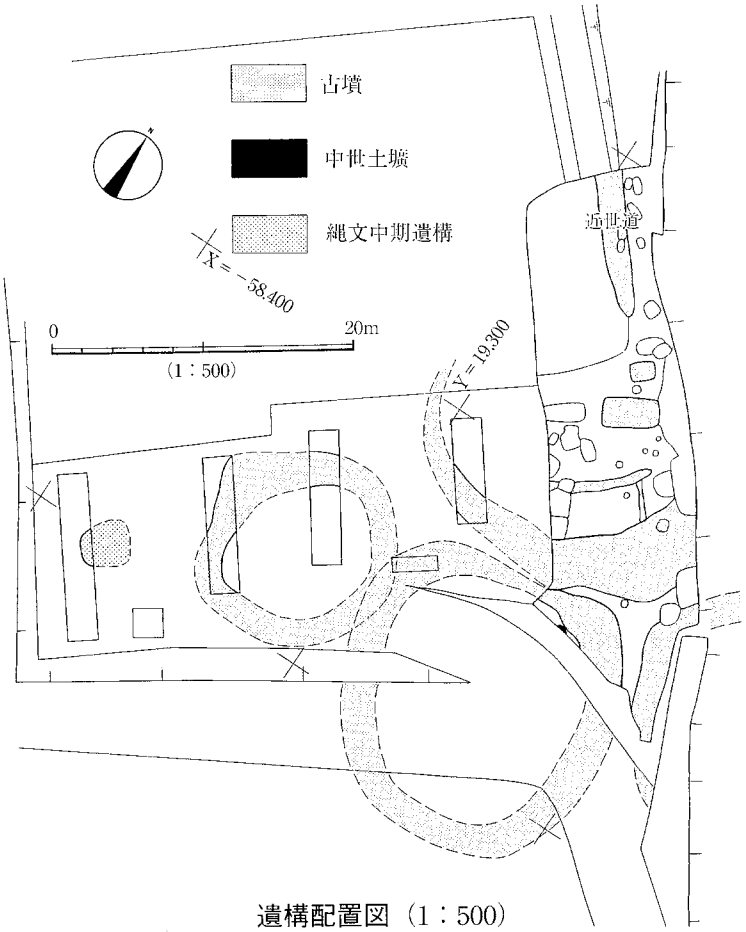
古墳はすべて古墳時代中期の円墳と思われる。それぞれ墳丘部は遺存せず、周構部のみの調査となった。うち1基は、周構の内法寸法約17mを測り、中心の主体部から鉄鏃が出土している。なお、本遺跡の古墳は、妙経寺境内から過密に列をなしており、前年度までの調査事例を含め、合計15基が確認できたことになる。

また、縄文土器包含層からは、五領ヶ台式期の深鉢や土器片錘が出土した。同期の住居跡が平成7年度調査区から発見されているので、一つの生活面として捉えることが可能である。

古墳群の発見は、古代房総の政治史に触れる良好資料として評価しえよう。　(櫻井敦史)



遺跡位置図（1：25,000）



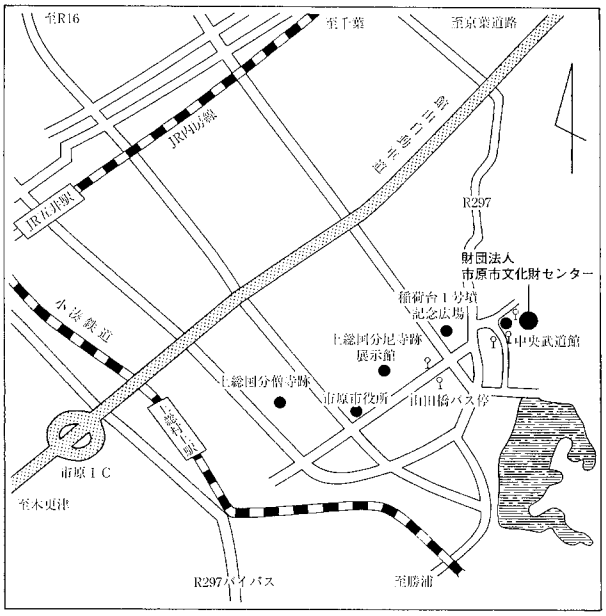
遺構配置図（1：500）

図書受領先一覧

文化庁文化財保護部記念物課	松戸市教育委員会
奈良国立文化財研究所	松尾町教育委員会
奈良国立文化財研究所飛鳥資料館	松本市教育委員会
奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	沼南町教育委員会
神奈川県教育庁教育部生涯学習部文化財課	上田市教育委員会
千葉県教育庁	榛原町教育委員会
宮崎県教育庁文化課	神奈川県教育委員会
山形県教育庁文化財課	世田谷区教育委員会
市原市教育委員会	青森県教育委員会
いわき市教育委員会	石岡市教育委員会
えびの市教育委員会	石巻市教育委員会
ひたちなか市教育委員会	仙台市教育委員会
八千代市教育委員会	千葉市教育委員会
安城市教育委員会	川西町教育委員会
伊東市教育委員会	泉佐野市教育委員会
一宮市教育委員会	船橋市教育委員会
一宮町教育委員会	前原市教育委員会
浦和市教育委員会	総社市教育委員会
横須賀市教育委員会	袖ヶ浦市教育委員会
岡山市教育委員会	大津市教育委員会
我孫子市教育委員会	大田区教育委員会
各務原市教育委員会	大島町教育委員会（富山県）
角田市教育委員会	大分県教育委員会
葛飾区教委区委員会	大和市教育委員会
鎌ヶ谷市教育委員会	朝霞市教育委員会
鎌倉市教育委員会	銚子市教育委員会
鴨川市教育委員会	長岡京市教育委員会
茅ヶ崎市教育委員会	長原町教育委員会
久留米市教育委員会	長坂町教育委員会
境川村教育委員会	長崎県教育委員会
栗源町教育委員会	津屋崎町教育委員会
群馬県教育委員会	津久井町教育委員会
群馬町教育委員会	土浦市教育委員会
郡山市教育委員会	東京都北区教育委員会
恵那市教育委員会	東金市教育委員会
御代田町教育委員会	東大阪市教育委員会
広島県教育委員会	藤沢市教育委員会
高畠町教育委員会	栃木県教育委員会
高松市教育委員会	日立市教育委員会
高槻市教育委員会	熱海市教育委員会
国立市教育委員会	能登川町教育委員会
佐原市教育委員会	柏市教育委員会
佐倉市教育委員会	八王子市教育委員会
佐野市教育委員会	浜田市教育委員会
坂戸市教育委員会	富津市教育委員会
三原市教育委員会	府中市教育委員会
三股町教育委員会	福岡県教育委員会
三好町教育委員会	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
三田市教育委員会	平取町教育委員会
三島市教育委員会	保谷市教育委員会
四街道市教育委員会	豊橋市教育委員会美術博物館
四日市市教育委員会	豊田市教育委員会
市川市教育委員会	北浦町教育委員会
志木市教育委員会	北区教育委員会
滋賀県教育委員会	本城町教育委員会
芝山町教育委員会	箕郷町教育委員会
秋田市教育委員会	名取市教育委員会
習志野市教育委員会	木更津市教育委員会
出水市教育委員会	野田市教育委員会
小田原市教育委員会	流山市教育委員会
庄原市教育委員会	和歌山県教育委員会

和歌山市教育委員会	倉敷市埋蔵文化財センター
財団法人いわき市教育文化事業団	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
財団法人かながわ考古学財団	福岡市埋蔵文化財センター
財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	岡山理科大学
財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社	岡山理科大学『岡山学』研究会
財団法人愛知県教育サービスセンター	広島大学文学部考古学研究室
財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室
財団法人茨城県教育財団	新潟大学人文学部考古学研究室
財団法人印旛郡市文化財センター	青山学院大学史学研究室
財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター	千葉大学文学部考古学研究室
財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	早稲田大学
財団法人岐阜県文化財保護センター	早稲田大学教務部本庄考古資料館
財団法人京都市埋蔵文化財研究所	早稲田大学考古学会
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	大阪大学大学院文学部研究科考古学研究室
財団法人君津郡市文化財センター	筑波大学歴史・人類学系先史学・考古学コース
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	帝京大学山梨文化財研究所
財団法人向日市埋蔵文化財センター	島根大学埋蔵文化財調査研究センター
財団法人広島県埋蔵文化財調査センター	東海大学
財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課	東邦大学付属東邦高等学校考古学研究会
財団法人香取郡市文化財センター	奈良大学文学部文化財学科
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	南山大学人類学博物館
財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター	日本大学史学会
財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団	武蔵大学人文学会
財団法人桜井市文化財協会	福岡大学考古学研究室
財団法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター	名古屋大学文学部考古学研究室
財団法人山武郡市文化財センター	明治大学博物館
財団法人滋賀県文化財保護協会	明治大学博物館事務室
財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団	立教大学学校・社会教育講座
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター	立命館大学文学部
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	和洋女子大学文化資料館
財団法人千葉県史料研究財団	國學院大學考古学資料館
財団法人千葉県文化財センター	國學院大學文学部考古学研究室
財団法人千葉市文化財調査協会	あきる野市代継・富士見台遺跡調査会
財団法人船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター	伊勢原市No.160遺跡発掘調査団
財団法人総南文化財センター	浦和市遺跡調査会
財団法人大阪市文化財協会	園生貝塚研究会
財団法人大阪府文化財調査研究センター	鎌倉考古学研究所
財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	瓦谷戸窯跡群調査団
財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター	寄居町遺跡調査会
財団法人鳥取県教育文化財団	玉川文化財研究所
財団法人鳥取市文化財団	坂戸市遺跡発掘調査団
財団法人東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	埼玉県志木市遺跡調査会
財団法人東広島市教育文化振興事業団	山武考古学研究所
財団法人東総文化財センター	春日部市遺跡調査会
財団法人東大阪市文化財協会	小茂根小山遺跡発掘調査団
財団法人徳島県埋蔵文化財センター	松戸市遺跡調査会
財団法人八尾市文化財調査研究会	成増天神遺跡調査会
財団法人浜松市文化協会	船橋市遺跡調査会
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	足立区伊興遺跡調査会
財団法人北海道立埋蔵文化財センター	台東区文化財調査会
財団法人枚方市文化財研究調査会	大宮市遺跡調査会
各務原市埋蔵文化財調査センター	大和市渋谷（南部地区）土地区画整理事業地内遺跡調査団
宮崎県埋蔵文化財センター	都内遺跡調査会
高槻市立埋蔵文化財調査センター	都立学校遺跡調査会
財団法人印旛郡市文化財センター	柏市遺跡調査会
財団法人山武郡市文化財センター	八千代市遺跡調査会
山梨県埋蔵文化財センター	板橋区舟渡二丁目遺跡調査会
秋田県埋蔵文化財センター	板橋区中台畠中遺跡調査会
水沢市埋蔵文化財調査センター	妙見山麓遺跡調査会
青森県埋蔵文化財調査センター	落川・一の宮遺跡（日野3・2・7号線）調査会

六甲山麓遺跡調査会
高崎市
札幌市市民局
千葉県文書館
千葉県立上総博物館
安城市歴史博物館
一宮市博物館
宇治市歴史資料館
横須賀市自然・人文博物館
横浜市歴史博物館
館山市立博物館
京都府京都文化博物館
玉里村立史料館
九州歴史資料館
群馬県立歴史博物館
港区立港郷土資料館
国立歴史民俗博物館
上高津貝塚ふるさと歴史の広場
世田谷区立郷土資料館
千葉県立安房博物館
千葉県立総南博物館
千葉県立中央博物館
千葉県立房総のむら
千葉県立房総風土記の丘
千葉市立加曽利貝塚博物館
船橋市郷土資料館
相模原市立博物館
袖ヶ浦市郷土博物館
大阪市立博物館
大阪府近つ飛鳥博物館
大田区立郷土博物館
大分市歴史資料館
土浦市立博物館
東京都江戸東京博物館分館江戸東京たてもの園
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
栃木県立なす風土記の丘資料館
栃木県立博物館
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
八千代市立郷土博物館
北区飛鳥山博物館
名古屋市博物館
流山市立博物館
鈴鹿市考古博物館
株式会社山川出版社
株式会社至文堂
有限会社アルケーリサーチ
市原市地方史研究連絡協議会
市原市文化財研究会
信濃史学会
成田山霊光館
千葉県文化財保護協会
朝日新聞社
東京考古談話会
東国歴史考古学研究所
日本窯業史研究所
房総文化財研究所
六一書房



〔交通案内〕

○ＪＲ東日本内房線五井駅下車
五井駅東口より中央武道館行バスあり
終点　文化財センター下車徒歩２分

○ＪＲ東日本内房線八幡宿駅下車
八幡宿駅東口より市原市役所経由国分寺台行
又は千葉県こどもの国行　山田橋下車
徒歩５分　市原中学校入口を入る

○館山自動車道市原ＩＣを降り
市原市役所方向へ車で15分

市原市文化財センター年報
（平成12年度）

平成15年３月20日　編集

平成15年３月28日　発行

発　行　財団法人　市原市文化財センター

〒290－0011　千葉県市原市能満1,489番地
TEL　0436（41）7300
e-mail ihbc@hkg.odn.ne.jp

印　刷　株式会社　弘　　文　　社
〒272-0033　千葉県市川市市川南２-７-２
TEL　043（324）5977